

九大広報

Kyushu University Campus Magazine

vol. 58

2008.7

九大
至宝

田島寮
樽神輿

特別企画 座談会

九州大学の新たな百年に向けて —関西同窓会からのメッセージ—

荒巻 禎一 京都府京都文化博物館 館長
上野 至大 西日本電信電話株式会社 相談役
中野 健二郎 株式会社三井住友銀行 代表取締役副会長
藤井 龍子 大阪大学 招聘教授

インタビュー・シリーズ九大人

東迫 旦洋

ダイハツ九州株式会社 代表取締役会長

ミシガン大学研修を終えて

長崎東高校2年 林田 由夏

最後の田島寮樽神輿



江戸ばなし(二)

九州大学名誉教授

中野三敏

今回は、近代人の対江戸意識の変遷を述べて、平成以前のそれが、まさしく近代主義的江戸理解の一語を以て括られるのではなからうかということを記しました。今回はその続きを記してみます。

平成に入った頃から、前回の冒頭にも述べたように、かなり風向きが変ってきました。それは謂はゞ、近代にはない、近代が見失った何かを、江戸の中に探してみようとする動きといえは良からうかと思えます。それはひとえに「近代」という言葉の持つ魅力が、やゝ色褪せてきたところに起因するのだと思います。実際、我々の学生時代には、「近代的」という形容詞は絶大の価値を担っていました。「近代」は誉め詞以外の何物でもありませんでした。それが六十年代末から地球環境の悪化に端を発した近代社会の状況は、世界的に明らかに歯車が軋み始めまし

た。まさしく近代の破綻・失墜が意識され始めたのでしよう。そこで気の早い向きは一斉に「近代の終焉」を連呼し「ポスト近代」を言い立て始めました。

一つの時代状況に明らかな矛盾が生じ始めた時、最も手早く、最も手堅い対応策としては、まずその時代がそれ迄否定し続けてきた時代なり思潮なりを（それは殆んどの場合、その一つ前の時代がそれに当たります）、もう一度再考し、そこに自らの時代の行き過ぎや欠陥を矯め直す手懸りを探ることこそが有効である筈です。果して社会はそのような道を採り始めたようであればそのまゝ、社会の健全さの証明でもあるように思います。平成以降の新らしい風向きはまさしくその動きなのでしよう。

物造りの技術の再評価に始まって、エコロジーと資源循環のシステムをふり返り、「地方の時代」の御手本

として幕藩体制や参勤交代の制度の見直しが有効とされ、為政者の倫理観の決定的な欠如に対して武士道論が盛り上り、「品格」という言葉が流行します。行き過ぎた個人主義や俗流フェミニズムの結果の家庭崩潰は、結局の所、近代主義のもとに諸悪の根元と指弾された家父長制や封建身分制の再考に迄行きつかざるを得ないのでないかとさえ思われます。これ等の傾向は、やゝトンチンカンな議論も含みながら、全体としては決して誤った撰択では無いようです。要するにその總括的な視点として、江戸に即した江戸理解が、

今こそ必要とされ始めたのです。近代人である我々が近代的視点を持つのは当然ですが、平成以前のように、ひたすらその一視点のみにこだわるのではなく、もう一つの目、いわば従来の近代主義を相対化し得るもう一つの視点を持つこと、それが江戸に即して江戸を見る目であると思

います、その二つの目を具えることによつてのみ、ようやく我々は物事を立体的に把握出来るのではないのでしょうか。それは決して、「近代の終焉」などといった早とちりではなく、寧ろ本当の意味での「近代の成熟」に他ならないと思います。思えば平成までの近代は誠に「未熟な近代」でありました。今、漸く近代は成熟の萌しを示し始めたのです。その成功の鍵はまさしく江戸を江戸に即して眺める眼の獲得という所にあると思つています。要するに等身大の江戸の姿を、正も負もひつくる必要なのです。その為の方法は一つしか思いつきません。それについては次回に。

中野三敏 (なかのみつとし)

国文学者

一九三五年福岡市生まれ。六四年早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻修了。七二年九州大学文学部助教授、八二年同教授、九九年退職。九八年紫綬褒章受章。

巻頭エッセイ

江戸ばなし

名誉教授

中野三敏

…… 1

インタビュー・シリーズ九大人

ダイハツ九州株式会社 代表取締役会長

東迫 且洋

…… 3

特集 オープンキャンパス

インタビュー・シリーズ九大人

第五十二回田島寮寮祭 実行委員長

野地本 真未

…… 9

「大学サミット・イン・九州二〇〇七」

ミシガン大学への短期研修を終えて

長崎東高等学校 二年

林田 由夏

…… 11

九大学生が案内する世界のキャンパス

□ ワシントン大学

…… 15

トピックス 1

□ 九州大学関西同窓会が設立

□ 大阪オフィスが開所

…… 16 16

特別企画 関西座談会二〇〇八

九州大学の新たな

百年に向けて

…… 17

関西同窓会からのメッセージ

荒巻 禎一

京都府京都文化博物館 館長

上野 至大

西日本電信電話株式会社 相談役

中野 健二郎

株式会社三井住友銀行 代表取締役副会長

藤井 龍子

大阪大学 招聘教授

シリーズ研究・ふろんとランナー

応用力学研究所 海洋大気力学部門 教授

大屋 裕二

…… 27

トピックス 2

□ プロパンス大学において「磁場核融合研

究に関する国際連携研究所（L-I-A）の開

所式典

□ 新装置 QUEST でプラズマ生成

□ 開学記念講演会

□ アメリカ大統領選挙公開討論会

…… 32 32 31 31

告知版

□ 平成二十年後期言語文化自由選択科目

開講案内

□ 平成二十年就職ガイダンスのお知らせ

…… 34 33

新聞で報道された九州大学

□ 平成二十年三月～五月

…… 35

表敬訪問

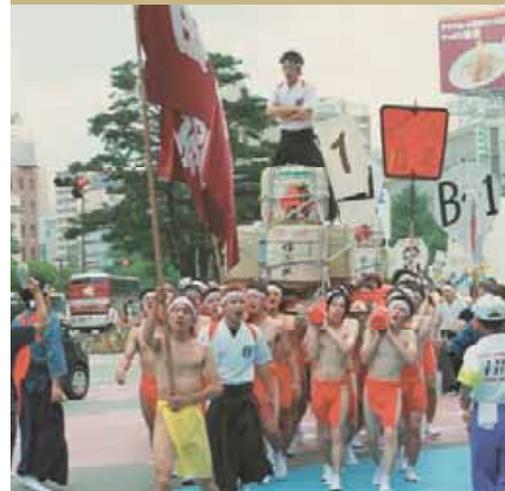
こんな本出しました

□ ビッグプロジェクト

…… 38

編集後記

…… 38



表紙の写真は田島寮寮祭樽神輿の様子
 （関連記事については9ページに掲載）

□ お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。
 □ 投稿をお受けします。文字数は、300字未満。手書きのものも受け付けますが、できればテキストファイルのフロッピーディスク又はEメールでお送りください。可能な限り掲載しますが、本誌の目的や性格に照らして不適当と思われる原稿は掲載しません。
 ■九州大学関係者が本誌記事を転載する場合は、「九大広報第〇号から」と明記してください。学外の方は、事前に事務までご連絡願います。
 ■「九大広報」は九州大学ホームページでもお読みいただくことができます。
 ■次号は、2008年9月発行予定です。



ダイハツ九州株式会社 代表取締役会長

東迫 旦洋

ひがしさとこ
あきひろ

聞き手

白杵純一

広報室長

二〇〇八年四月、大分県中津市に本社のあるダイハツ九州が、設計・開発拠点である「開発センター」を、福岡市の九州大学伊都キャンパス隣接地に設置することを発表しました。発表当時の社長、現在会長の東迫旦洋氏は九州大学工学部のOB。中津のダイハツ九州本社で、多忙な中インタビューに応じていただきました。

このインタビューは、二〇〇八年五月二十日に行われました。

東迫会長の略歴

一九六六（昭和四一）年三月、工学部動力機械工学科卒業。同年四月ダイハツ工業株式会社に入社し、設計部門、企画部門を経て、一九九一年三月製品企画部チーフエンジニア（部長）、九六年取締役就任。九八年取締役本社工場長、京都工場長。二〇〇〇年ダイハツ車体株式会社代表取締役社長就任。〇四年十一月に同社は群馬県前橋市から大分県中津市に移転。〇六年六月にダイハツ九州株式会社に名称変更し、同社の代表取締役社長に就任。

下宿から

大学正門を通りすぎ

麻雀屋に通う

「ご出身は鹿児島県ですが、玉龍高校から九州大学工学部へ進学された理由は？」

東迫 それは自然な流れだったのです。当時は、工学系の人材増進が希求していた時代。機械工学、生産機械、動力機械の三学科から成る九大の機械系の学生定員が、百から百四十名に増え、各学科の建物が次々と建てられました。それらは当時、新しく近代的な建物に見えたものです。

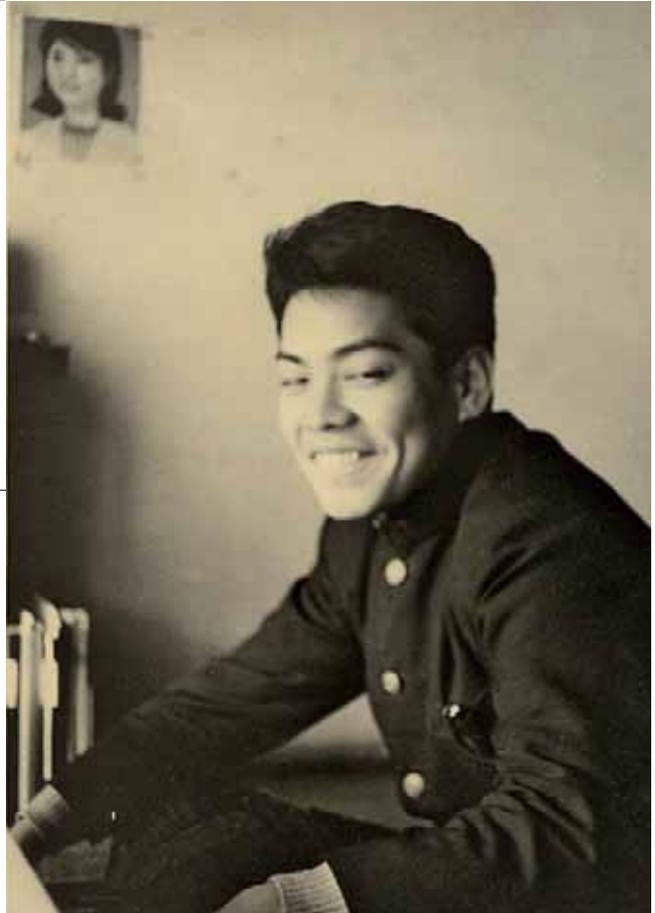
東迫会長と同期で機械工学科に在籍していた村上敬宜副学長によれば、「麻雀と卓球が得意で友達を大事にする学生だった」とのことです。

東迫 六本松の教養部時代は田島寮に入り、二年生の十月に工学部に移ると、箱崎の正門前の、今は駐車場になっていますが、下宿屋二階のふすま部屋に住んでいました。麻雀は当時流行っていて、三

年生になると下宿を出て正門前を通りすぎ、「信楽マージャン」と言つたかな、麻雀屋に通つて朝から晩まで過ごしていました。主任教授から呼び出されて「君の生活が理解できないんだが、説明してくれ」と言われたこともありましたよ。見ていられたなかったのでしよう。

四年生になると卒論に取り組みなければなりません。私は「流体」をテーマにして、大学院生の実験の手伝いで、毎日水の入つたバケツを実験棟の二階まで運んで流す作業をやっていました。寝坊して行かないでいると、事務室の女性職員の方が部屋まで上がつて来て「早く出て来なさい」。

当時の学生はとにかく金がない。洗濯は手洗いで面倒だから下着は洗わず裏返して着るか、いつそ着ない。皆で集まって洗面器を鍋にしてすき焼きを食べました。誰かに金ができるのと皆で飲みに行く。当時、屋台でもスナックでもハイボールが一杯百円で飲めました。千円で十杯飲める訳ですが、途中



正門前の下宿で。男性にも女性にもてた。(同期生評)

で屋台のおやじが「体壊すよ、食べた方がいいよ」と言つておでんを出してくれました。金が無くて十分酔えないときは全力疾走したりしてね。箱崎まで路面電車が来ていた頃の話です。先日箱崎に行きました。道が大きくなって飲み屋さんが少なくなったと感じました。

酒や麻雀だけでなく、スポーツも得意でいらつしやう。

東迫 得意というほどではないですが、卓球は中学からやっています。

したので、製図室でよく皆とプレーして、学科対抗のスポーツ大会では卓球の機械系代表として出場しました。優等生もそうでない学生も一緒になつて学んだり遊んだりする、まとまりのあるいい学科だったなと思います。二年の夏には友人と三人で北海道まで自転車旅行をしました。久留米のブリヂストンで最新型の自転車を定価の半額で売ってもらい、札幌まで三週間弱で行きましたが、着いたら金も尽きたので、自転車を買値で

売って帰ってきました。箱根の山越えは辛かった。途中は野宿、たまに大学寮に泊めてもらうのですが、テントで寝ていると「家に来なさい」と泊めてくれる方もあった。「学生さん」として社会が学生と付き合ってくれた時代だったと思います。

四年の終わり近くになっても、私や中国電力社長の山下隆君など数人は単位が足りず卒業が危ぶまれる状態で、二月と三月は十以上の科目で追試験を受けました。事務室に星取表が張り出されて、合格した科目には「が付いて」「目下十連勝！」などと書いてある。職員の方々も応援してくれていたのですね。

その甲斐あって見事卒業され、六六年にダイハツ工業に入社されますが、それはどのような動機から？

東迫 求人のある企業の一覧が貼ってあって、先に「つけた者が優先」。当時人気があったのは、製鉄、重工、造船それに電気などで、自動車はそうでもなかった。まだ

が付いていなかったものでダイハツにしました。しかし、「自動車はこれからいいよね」という予感があった。トヨタへ行った迫田東二君など、私を含めて三人が動力機械から自動車業界に就職しました。当時の自動車業界は、トヨタ、日産、マツダ、ダイハツなど、まだそんなに差はなかったのです。

就職試験の面接で志望動機を訊かれました。「自動車が好きで」と答えると、相手もたいしてもので「免許は？」、「持っています」。さらに、「随分単位数が少ないよのだが」と訊かれて、「九州大学は四年での単位取得が多く、こんなものです」と答えました（笑）。

エンジニアから 人の質を尊ぶ経営者へ

ダイハツに入社されて、猛烈に努力されたと言いました。

東迫 できるだけ早く吸収して一人前のエンジニアになろう、車全体の設計責任者であるチーフエンジニアになりたいと、怠惰だった学生時代には考えられない努力は



しました。最初に配属された設計部門では、スケッチなど基礎的な訓練ばかり半年以上させられましたが、人材をじっくり育成しようということだったのでしょう。設計から製品企画部門を経て、八八年に主査、九一年に念願のチーフエンジニアになりました。その後取締役になり、九八年には本社工

場長を命ぜられました。それまでエンジニアとして自動車の開発設計をやってきたのが、工場で組織の管理運営を勉強するということです。〇〇年にダイハツ車体の社長となり、〇四年末にダイハツ九州として中津に完全移転して今は四年目に入っています。土地や港の整備、環境への配慮や高効率の



実現、人の移動や人材確保などいろいろなきことがありましたが、滅多にできない良い経験をさせていただいたと感謝しています。現場をよく見れば何が起きているのかわかりますから、今も毎日車の組み立てラインを見て回ります。

自動車業界は大変厳しい競争下にあると想像されますが、ダイハツ車は〇八年四月五月の車名別新車販売台数で、上位十位に三台入っています。ダイハツ九州のトップとして、どのようなことを念頭に置いて仕事をしておられますか。

東迫 ダイハツの得意な小さい車は、決められた寸法の中で低価格かつ高品質、そして安全でなければなりません。条件が厳しく制約が多い中で検討を重ね、「軽」という制限に打ち勝つべく努力した結果が今の車です。要は様々な要素を総合した意味での「品質」に尽きます。当然のものとして期待される「当たり前品質」をしつかり確保した上に、企画・設計・デザインなどによって商品としての価値を積み上げてお客様に選んでいただくなくては、ダイハツのグループ会社として本社の三工場に

勝って生産台数を増やすことができないうし、発展もない。そのためには、あらゆることにとかく前向きに取り組むことだと思っています。

勝って生産台数を増やすことができないうし、発展もない。そのためには、あらゆることにとかく前向きに取り組むことだと思っています。

らい九州から採用していますが、高い品質につながる仕事ができるよう、技能訓練から社会人としての礼儀作法まで、いろいろなことを学んでもらっています。

福岡の魅力は豊富な人材 九大生にも来てほしい

東迫 車の品質で言えば、それを決めるのは人の質です。生産ラインを見ていただければ分かりますが、設備やロボットはサブ。作業している人の品質へのこだわり、技量、まじめさ、ロイヤリティといったものが車の品質を決めるのです。中津へ来て既に千五百人く

〇八年四月二十四日には、ダイハツ九州の設計・開発拠点である「開発センター」を福岡市の九州大学伊都キャンパス隣接地に設置することを発表されました。私もはたいへん喜んでいるので、何を期待されているの伊都進出で

ダイハツ九州株

大阪府池田市に本社のあるダイハツ工業が一〇〇%出資する子会社で、「ハイゼットシリーズ」をはじめ「ミラ」、「アトレいわゴン」、「ビーゴシリーズ」の生産を主な業務とする会社。二〇〇四年十一月に本社機能と本社工場を群馬県前橋市から大分県中津市に移転し、〇六年六月に「ダイハツ車体株式会社」から現在の称号へ変更。

移転後の生産能力は年産二十三万台であったが、〇七年十一月に、環境やエネルギーに配慮し、既存の第一工場の半分の面積で同じ生産能力の第二工場の操業を開始し、生産能力は第一、第二を合せ、年間四十六万台となった。

〇八年八月には、久留米工場（エンジン）が操業を開始予定。また、同年四月には、一〇年四月に九州大学伊都キャンパス隣接地に、ダイハツグループの開発機能の一翼を担う「開発センター（当初約一〇〇人規模）」を設置することを発表。カーアイランド九州における開発から生産までの一貫体制構築、ならびに九州大学学術研究都市への本格的な企業進出第一号として注目される。

しょうか。

東迫 ダイハツの生産子会社からの自立化。開発から生産までの一貫した体制を整えることで、いろいろな効率化が可能になるでしょう。自分で設計からできると、生産性も高まり、地元での部品調達率が上がりますし、部品メーカーの品質向上にも効果があります。できることは自分でできるようにするというのは、親から見ても大事なことです。

なぜ福岡、なぜ九大か。人材確保は今後難しくなっていくでしょう。福岡は九州の中心。福岡県の国公立工学系大学生の数は東京に次いで全国第二位なのです。開発拠点ということ、経験者やUターンの人を採用しやすいということとを考えると、各県からの交通の便の良さは魅力です。今後は生産現場の人だけでなく、技術者も不足して取り合いになるでしょう。センターは百人位からスタートして二百五十人規模にまで大きくしたいと思っています。「開発」の切り口でアピールして、九大の学

生にも来てほしいし、産学官連携も期待しています。

―最後に、九州大学と後輩たちへ、メッセージをお願いします。

東迫 外から九州大学を見ると、最近元気がない、話題になるものが少ないと感じます。もっと活性化した大学にすべきです。一地方大学化しているのではないかというイメージがあります。

理科離れ、工学部離れが言われますが、せっかくダイハツ九州というものづくりの会社が進出するのですから、生徒や学生に理科や工学系に興味をもってもらえるようなこともしたい。中津で小学生の親子体験教室など開くと、「こんなに真剣な我が子を初めて見た」などと大変好評です。シャボン玉でも竹とんぼでも作られたものを与えられる今、自分でもものを作る経験は貴重で、本来持っている「つくること」への興味を目覚めさせます。そういう教育は、日本の将来のために必要でしょう。

九大生はまじめでおとなしい印象です。最近は、採用面接の時に、

「学生時代に何をしたか」と訊いても答えられない人が多い。スポーツをやったなどはありませんが、的確な答えが返ってこない。学生時代に何かに没頭してほしいと思います。私は三年の時、指紋が擦り切れて無くなるくらい麻雀に没頭した訳ですが（笑）。



九大人が伝える
進化文化の
遺産
シリーズ九大
人インタビュー

学生時代に
何かに没頭してほしい



九大人が伝える
進化文化
進化文化
遺伝子

シリーズ九大人
インタビュー

第五十二回田島寮寮祭 実行委員長

芸術工学部 二年

野地本真未

のじもと

まさみ



最後の田島寮樽神輿

本号の表紙を飾ったのは、九州大学田島寮の学生による寮祭名物行事「樽神輿（たるみこし）」です。第五十二回となる今回は、平成二十年七月五日（土）に行われましたが、この「樽神輿」も平成二十一年度の六本松キャンパスの伊都キャンパス移転に伴い、最後となります。

最後の田島寮寮祭実行委員長となった野地本真未さんに、田島寮と樽神輿への想いについて語っていただきました。

野地本真未 プロフィール
広島県呉三津田高等学校出身。芸術工学部音響設計学科所属。映画館などの音響などが好きで、休みの日には、天神などによく映画を見に行くそうです。最近は映画制作にスタッフとして参加したりもしているとか。

「樽神輿、本当にお疲れ様でした。最後とあってか例年以上に盛大に行われましたが、終わってみて、感想はいかがですか。」

終わってしまったなあという感じ。五十二年もの長い歴史の中で最後だということ、プレッシャーにもなっていました。それが良いモチベーションを引き出し、今回の成功につながったと思っています。これだけ多くの人間が、全員が全員、本気になって一つのことに取り組むこともないと思うし、そんな環境の中で一年生は自分がどれだけ本気になるのかを知ることができる良い機会になったと思います。

「実行委員長になるのには何かきっかけがありましたか。実際になってから準備等で大変だったことはありませんか。」

一年生の時に寮祭で多くのことを学び、良い経験ができました。そして何より私自身寮祭が大好きなので、そのことを一年生にもぜひ体験してほしい、さらに自分よりも良い経験をしてほしい、そんな想いから、実行委員長に立候補しました。委員長になってから最初のうちは、人前でしゃべることにならな慣れだったので、多少不安もありました。また、一年生の場合、大学に入ってからそれぞれやりたいこと（アルバイト、

サークル活動等）がある中で、寮祭の良さを伝え、一カ月半の間、寮祭に真剣に取り組めるよう説得するには苦労しました。私も寮に入る前は、寮祭と聞いても簡単な文化祭みたいなものであろうと簡単に考えていましたから。

「沿道から応援して下さる地域の方々や遠路はるばる駆けつけていただいたOBの方々について、どのような感想をお持ちですか。」

樽神輿当日は、三十年以上前のOBの方も参加されていて、何年経っても色褪せることのない寮に対する強い「思い入れ」を感じ、すごく感動しました。また、OBとして参加して下さる方々の多さから、良き伝統を引き継ぐことができたことに対する喜びも



樽神輿の上で1年生を激励する野地本さん

樽神輿

写真は第一回目の樽神輿（昭和三十三年六月七日）の様子
写真提供：倉谷重嗣さん（昭三十六年工学部卒業）



同時に感じました。沿道から応援してください。沿道の方々からは、報道にあれば「なんでやめるんだ！」という声も聞かれ、地域にも認められる伝統の凄さみたいなものを実感しました。

― 今回で、田島寮寮祭樽神輿は最後となってしまいました。田島寮や樽神輿がなくなってしまうことについて、どう思われますか。田島寮ならではの思い出があれば、それもお聞かせください。

。そのことと思うと非常にさみしい気持ちになります。田島寮には、大掃除や餅つき等の行事もありますが、やはり寮祭の思い出が一番です。特に樽神輿では、ふんどし姿で天神の町中を歩くという、他ではできないような経験ができて、本当に良い思い出になっています。

― ズバリ聞きます！寮生にとって田島寮とは何ですか。

一年生にとっては、本気になって行事に取り組むことで、過去の弱い自分を見直し、自分を変えられる場所。また、二年生にとっては一年生の成長す

る姿を見て、さらに自分について考える成長できる場所です。そして、一緒に住む仲間とは「家族以上の強い絆」を持つことができる特別な場所だと思います。

― 今号は、九大を目指す多くの高校生が読むことになりましたが、先輩として、九大を目指す中で頑張ったこと、実際に入学してからの九大の印象についてコメントをお願いします。

実家がピアノ教室をやっていたこともあり、昔から何かしら「音」に関わって育ち、将来はホールの音響設備や内装を作る等、音響に関わる仕事がしたいという明確な目標が早い時期からありました。そんな中で音響を学べる学部・学科があったのが九大で、オープンキャンパスに参加した時、芸術工学部の音響設備（無響室等）を見て、さらに九大に入学したいという気持ちになり、あとは目標に向かって突き進むだけでした。九大の印象ですか：田島寮の印象が強いですね（笑）。入学する前は、九大生と言えばおとなしく勉強ばかりしているイメージがありましたが、実際には逆で、多種多様な人間が揃っており、皆活動的な人ばかりです。

― 最後に、後輩や九大を志望する学生へのメッセージをお願いします。

田島寮が存続するなら、ぜひ寮にと言いたいです（笑）。ひとつ私から言えることは、「早い時期から、自分のやりたいことを明確にしておく」ということです。大学生というのはやろうと思えばなんでもできる、でも何もしなければ何もない、そんな時期だと思っています。寮に入ってきた一年生に話を聞いても、自分は大学で何がやりたいのかははっきりと言える人は少ないです。大学に入る前に、やりたいことをあれこれ考え、強い意志をもっておくことが、大学生活を良いものにするコツだと思います。

このインタビューは、二〇〇八年七月十五日（火）に行われました。

知ってた？ 樽神輿だけじゃない！ 田島の寮祭

田島寮祭といえば樽神輿が有名ですが、実際には樽神輿前に寮生は一カ月半の間、土日等の時間を使って様々なスポーツや競技を行って、ブロックや棟ごとに順位を競うそうです。他にも寮ならではの行事もたくさんあって、そんな中で自然と仲間との絆も強くなるという訳ですね。

「大学サミット・イン・九州2007」

ミシガン大学への短期研修を終えて



長崎東高等学校二年

林田由夏

工学部物質科学工学科四年

大島さやか

九州大学 総長

梶山千里

司会進行 九州大学 理事・副学長

柳原 正治

アジア、世界へ教育研究の場を広げる九州大学。二〇〇七年十月には世界の大学が福岡に会する「大学サミット・イン・九州二〇〇七」を主催。同サミットでは初の試みとして、全国の高校生から懸賞論文を募集し、最優秀賞に長崎東高等学校の林田由夏さんが選ばれました。

今回は、副賞として受賞した約一週間のアメリカ・ミシガン大学への短期海外研修を終えた林田さんと、梶山総長、柳原副学長、九州大学の交換留学制度を活用して一年間ミシガン大学に留学した大島さやかさんの四名で、留学の意義や面白さ、可能性について語り合っていました。

懸賞論文最優秀賞が
もたらした多様な「経験」

梶山 このたびは懸賞論文最優秀賞受賞、おめでとうございます。短期間ではあれ、林田さんはミシガン大学のキャンパスライフを経験した訳ですが、若い時に自分の住んでいる環境とは違う世界で生活し、多様性というものを目の当たりにするなど、日本国内にずっといる学生とは違う経験をしてもらっちゃった。この「経験」こそ、人生の重要なキーワードのひとつだと私は考えています。人生を送る間に、経験の豊富な人が、過去の経験に基づいて良いチョイスをし、ずっと良いチョイスが続いていくと、最後はベストな人生になる。

柳原 サミット会場での授賞式の後、長崎東高校に帰ってからも改めて受賞があったそうですね。同級生たちの反応はどうでしたか。
林田 海外へ研修に行けるという点がみんなの一大関心事でした。アメリカという響きを持つインパ



懸賞論文最優秀賞を受賞した林田由夏さん

クトは大きいです。

アメリカの学生の 高い意識に驚く

柳原 一週間くらいの滞在でしたが、この間にはミシガン大学の Coleman (コールマン) 学長や Tessler (テスラー) 副学長を敬されています。どんなお話をされたのですか。

林田 お二方とも日本のことを良く知っておられました。

アメリカという世界を俯瞰できる超大国にしながらも、いろいろな国に目を向けておられるんだなと感心しました。

梶山 Colemanさん、Tesslerさんはいろいろな経験をされてい

て、自国と他の国とを比較できるから、鮮明にそれぞれのユニークな点や特徴、長所がわかるのでしよう。私もまずはミシガン大学はどんな町にあつて、どんなキャンパスなのかを林田さんに聞きたいですね。

林田 町の人口は十一万人くらいで、そのうち二万人くらいを学生が占めています。この写真は大学内でバスケットの試合を見せていただいたときのものです。

柳原 ミシガン大学はスポーツが非常に強い大学ですよ。

大島 バスケットも人気がありますが、何よりアメフトが強い大学です。

柳原 学生寮での催し物の写真もありますね。

林田 この建物は女子寮で、日本、ドイツ、イタリア、イングランドなど世界中の料理が無料で供されています。南極の料理というメニューもあつて、とてもバラエティーに富んだものでした。

柳原 林田さんの報告書に“Concentration Fair (コンセントレーションフェア)”に参加した、とあります。これも日本では聞きなれない行事だと思うのですが。

林田 まだ、自分の専攻が決まってい

ない学生が、ここで様々な学部学科の情報を収集できるようになっています。ホールにブースが

設けてあり、教育学、法学など全学科の情報が発信されています。

私もたくさん資料をいただきました。

梶山 何年生が利用するのですか。

大島 大半が一年生及び二年生ですが、三年生で利用する学生もたまにはいます。

梶山 日本でいえば、教養部から専門に入るようなものですね。

大島 工学部以外は“College of Literature, Science & the Arts”

に属して、通常は二年生の末に主専攻 (major) と副専攻 (minor) を決定します。

梶山 リベラルアーツに近いのですね。選べるという点が面白いですね。

大島 学生は自分の主専攻を選び、それをアドバイザーと話し合っ

ていきます。

梶山 ひとつの学部

に学生が集中した場合、人数の制限はあるのですか。

大島 たぶん成績順だと思

います。柳原 林田さんは、授業もマーケティングなど四回受けていらっし

やいますね。どうですか、授業は聞き取れましたか。

林田 はい、大まかには (笑)。

内容が専門的なことだったので、先生によって聞き取りできるレベルは違いましたが。

柳原 アメリカ人と一緒に受けたのですよ。学生たちの授業を受ける姿勢はどうでしたか。

林田 これは私が滞在中にもっとも刺激を受けたことの一つなのですが、授業中に挙手をして発言をする頻度がすごく高いのです。分

からないことをすぐ質問したり、先生がレクチャーされたことに対して意見を言ったり。また、それを議題にみんなですばし議論することもあつて、意識の高さに驚か

されました。

梶山 日本

の場合は一方通行です



大島さやかさん

よね。その点、アメリカでは小学生や幼児でさえ先生と双方向です。小さな子でも、自分の意見をパッと先生に言っ、先生もそのことを大切にします。そういうことの延長に大学があるのでしようね。

柳原 大島さんは一年間、交換留学生としてミシガン大学に行かれましたが、何が一番印象的でしたか。

大島 先ほど林田さんも言われていたように、学生の意識が違うことです。九大生に限らないことですが、日本の大学生は入試が終わると、緊張の糸が切れてしまい、勉強に対するモチベーションが低下するでしょう。高学年になるにつれて、若干は上がると思うのですが、アメリカの場合は入学する時から卒業する時まで、「いい

「大学サミット・イン・九州2007」 ミシガン大学への短期研修を終えて

成績で頑張りたい」とテンションが高く、授業に対する取り組みは日本とは全然違うものです。毎日夜中の二時、三時まで勉強する彼らの姿を見ていると、日本の学生は落ちこぼれてしまうのではないかと危機感を覚えました。

柳原 梶山先生がマサチューセッツ大学に留学されたのは一九六〇年代。失礼ながら（笑）かなり時代はさかのぼるのですが、一番印象深かったのは何でしたか。

梶山 私は大学院の学生として行きましたから、目的意識はものすごく持っていました。自分は将来、こういう研究をやりたい、こういう職業に就きたいということをも鮮明に描いている訳です。その目的を成し遂げるために、勉強も死に物狂いです。それともうひとつは、大学サイドも学生にたっぷり勉強させます。ひとつの科目が週三回あるなど、授業時間も余裕があるから先生は抜き打ち試験ができるのです。それが期末試

験と同じくらいに重要な評価の対象になっていきます。だから、みんな戦々恐々として勉強する。ただ、金曜日の夕方から日曜日の午前中までは徹底的に遊んで、完全にリフレッシュするのです。学びと遊びのコントラストがはっきりしていることにも強烈な印象を受けたことを覚えています。

注目度の高い日本。 留学生は日本代表としての 使命を負っている。

柳原 短い期間ですが、アメリカから見ると、日本を含めたアジアはどう見えるか、何か印象を持たれましたか。

林田 ミシガン大学の学生の中には、日本語や日本の文化を専門に勉強している人がたくさんいます。日本に対する注目度の高さを実感し、驚くと同時に身の引き締まる思いがしました。そのアメリカに入っていく一人の日本人として、日本を代表するくらいの気持

ちで何かを伝えたいという衝動のようなものも感じました。

梶山 日本の代表という意識、自分はそのだけの使命を持ってアメリカに行っているという気持ちは非常に重要ですね。その使命を持つていくのと持たないで行くのとでは全然吸収の程度が違ってきます。林田さんがそんな気構えでミシガン大学での研修に臨んだというのは大したものだと思います。

極めて充実した 九州大学の留学制度

柳原 九州大学の交換留学制度は極めて充実したものであると自負しています。

大島さんはこの交換留学制度で一年間、ミシガン大学に留学されましたが、いかがでしたか。

大島 素晴らしい制度で、留学して非常に良かったというのが実感です。理由は二つ。まずは学費のことですが、通常、留学にはかなりの費用が必要です。でも、交換留学制度の場合は、九州大学に授業料を納入しておけば、留学先の

大学には一切払わなくていいので、とても助かりました。加えて奨学金もいただけるようになり、留学中は勉強だけに集中することができました。

柳原 大島さんはチューター経験をお持ちでしたね。

大島 九州大学の短期留学生の受け入れプログラムのひとつであるJTW（注）のチューターをしました。私が担当したのは香港からの留学生。最初に空港に迎えに行くことから始めるのですが、ちゃんと会話ができるのだろうかとか、最初に何を話そうかとか、いろいろ思いを巡らせて非常にドキドキした記憶が残っています。まずは外国人登録など事務手続きのお手伝いをするのがチューターの第一歩で、その後は、友人の一人として生活をサポートしていきます。彼女だけでなく、他の留学生ともお話をしたり、お花見をしたりと共に活動することができました。それらを通して、留学生たちの日本の捉え方や、日本にいながら日本のことを知らなかった自分に気

づき、改めて日本を感じることもできました。それと、留学生と触れ合いながら、世界に目を向ける大切さにも開眼しました。留学は彼女たちの後押しもあつて決断したということもあるのです。チューターは非常にいい経験だったと思います。

柳原 大島さんはまさに留学のモデルケースですね。大島さんにとって現在の交換留学制度はすべてに満足がいくものでしたか。改善すべき点はありませんでしたか。大島 私は工学部なのですが、ミシガン大学で取った実験の単位が認められないということがあつて、一年留年することになりました。でも、文系で同じ大学へ留学した他の人は四年で卒業していますので、単位互換は学部によるようですね。

柳原 一年留学すると、必ず留年して卒業に五年かかると思われがちなのですが、交換留学する人たちの半分くらいは一年留学しても四年で卒業しています。

他者の多様性を尊び、
自らの独自性を伝え、
成長しよう。

梶山 留学する人としらない人では、十年後に比較したら大きな差がついているというのが私の確信です。留学の意義として、冒頭にお話した経験ともうひとつ、相手を尊ぶという姿勢を挙げたいと思います。

日本人と民族、言語、宗教、日常生活の仕方も違う人々が世界にいて、いろいろなことを知るだけでも貴重な経験です。アメリカ人が日頃しばしば口にするencourageという言葉があります。相手を勇気づけて、いろいろな行動を起こさせるということのような意味で用いられ、相手を認め、相手を成長させるencourageという行為は、結果として自分自身の成長を促すことにもつながっていきます。留学は多様な文化を知り、経験し、それを尊び、同時に自国の文化、自分の考え方、感じ方を伝える訓練ができるチャンス。そのチャンスをつかめる人は努力、能力に優れた人だ

と私は評価します。これからもぜひ努力と能力を発揮して人生を創造していただく。

この報告会は、二〇〇八年四月四日（金）、箱崎キャンパスの総長室で行われました。

（注）JTW: Japan in Today's Worldの略。九州大学における外国人短期受け入れプログラムのひとつで、期間は一年間（十月から翌年七月）または一学期間。日本文化・日本事情・人文社会科学などの専門分野に関する講義を受講し、各自が設定したテーマについて、専門の教員の指導のもとに自主研究を行う。



対談を終えて（左から）梶山千里総長、林田由夏さん、大島さやかさん、柳原副学長



九大生が案内する 世界のキャンパス

University of Washington

交換留学先

ワシントン大学



アメリカ

工学府航空宇宙工学専攻1年

玉田 功 たまだ いさお

「あれ？アジアに留学しに来たんだけ？」

そんな手違いはあるはずもなく、僕は今、アメリカのワシントン大学（UW・ユードブ）で留学中です。しかし、そんな問いが浮かんでくるほど、UWには世界各国、特にアジアを中心に留学生が多数在籍しています。こうした環境から、僕はこう思いました。

「留学とは、世界的に見たら決して特別なことではない」

そこで今回は、UWの情報を中心に、留学というものをもっと身近に感じてもらえたらというテーマで書いていこうと思います。

冒頭部分で誤解されるとまずいので改めますと、授業形式やキャンパスライフはいたって他のアメリカの大学同様です。

まず授業ですが、大学の特徴として、留学生を広く受け入れてくれることが挙げられます。僕の場合、専門とする航空宇宙工学を中心に、興味のある環境問題系の授業や、ゴスペルの授業も履修し、アメリカならではの経験をしました。要は、積極的な意思さえあれば、学びたいことをしっかり学ばせてくれる体制は整っていると言えます。

また、文化交流が盛んで、日本に興味がある学生が多いのも特徴です。休日などには、友人の家で日本料理を振る舞ったり、逆にシアトルを案内してもらったりなどして楽しんでいます。こうした友人との交流から、英語を始め、価値観の違いなどを学ぶことができたと思います。

何より、留学して経験した多くのことが新鮮で自分の力になりました。そして、そのような経験や自分の成長を求め、世界各国から学生が集まるのがUWです。

最後に、現時点で少しでも留学したいという意思がある方は、是非トライしてみてもいかがでしょうか？

大学情報

University of Washington



ワシントン大学は、ワシントン州シアトルに、一八六一年アメリカ西海岸で二番目の大学として設立されました。教育水準が非常に高く、全米でも屈指の大学として位置付けられています。特に、薬学、工学、森林学の分野において定評があります。また、マイクロソフトとの結びつきが強く、コンピュータサイエンスは全米トップ五に入るほどです。近年では、環境学にも力を入れているようです。生徒数は、毎年四万人程で、そのうち留学生が二千五百人を占めます。また、Asian American & African AmericanやMinority Studentと呼ばれる学生が一万二人近くを占め、国際色豊かなことが伺えます。

また、大学の設備も日本とは比較にならないほど充実しています。MAと呼ばれるジムでは、気軽に色々なスポーツが楽しめます。二十四時間開いている図書館もあり、勉強する場所にも困りません。

大学のあるシアトルは、「雨とカフェ」で有名ですが、雨は心配していたほどではありませんでした。治安とコーヒーは評判通り最高でした。UWに来たら是非カフェ巡りするをお勧めします。

九州大学関西同窓会が設立

平成二十年六月二十五日（水）、関西地区及びその近隣に在住する九州大学同窓生で組織する学部横断的な「九州大学関西同窓会」が各学部等の同窓生有志の協力を得て、荒巻禎一氏（京都府京都文化博物館長、元京都府知事）を会長として設立されました。

当日は、大阪市淀川区のメルパルク大阪にて、設立総会後、設立記念パーティーを行い、九州大学関西同窓会入会登録者二二七名（六月二十五日現在）のうち、一〇九名の方が参加されました。参加者は、昭和十六年度卒業の方から、平成十九年度卒業の方までおられ、幅広い世代の方が和気藹々と過ごされました。東京と並ぶ多数の同窓生を擁する関西地区において、このような学部等の垣根を越えた同窓会組織が設立されることにより、同窓生及び各同窓会の活発な活動交流が推進されるとともに、本学の更なる発展へも繋がっていくものと期待されます。

なお、本同窓会は、個人資格により入会でき、本学の卒業生のほか、かつて、本学の学生又は教職員として在籍し、本学へ強い愛着を抱いている方々も入会できます。

関西同窓会の情報、入会受付は九州大学同窓会連合会のHPをご覧ください。

<http://sounuhp.ofc.kyushu-u.ac.jp/alumni/>



設立総会で挨拶を述べる荒巻禎一九州大学関西同窓会会長

大阪オフィスが開所

平成二十年六月二十五日（水）、関西地区での本学の拠点「九州大学大阪オフィス」の開所式を行いました。百周年記念事業推進会役員、関西同窓会関係者、関西地区主要就職先企業の人事担当者など約六十人が出席し、大阪オフィスの開所を祝いました。開所式に先立ち、梶山千里総長が「今後、関西地区における積極的な情報収集・発信を進め、関西地区同窓会や百周年記念事業の活性化を図っていきたい。学生には就職活動の際にも活用してほしい」と挨拶しました。

来賓として出席した鷲田清一大阪大学総長は「最近は大隈間における『競争』が強調されているが、同時に『協奏』も必要。関西と九州は共に長い歴史を持ち、文化や言葉の点でも互いに独自の発展を遂げてきた。今後も九州大学が新たな形で発展を遂げることを願っている」と祝辞を述べました。

荒巻禎一京都府京都文化博物館長（元京都府知事）による乾杯の発声の後、参加者は九州大学の新たな取り組みや関西地域での今後の活動などについて熱心に意見交換を行っていました。

九州大学大阪オフィス

住 所：大阪市北区梅田1丁目3番1-600号 大阪駅前第1ビル6階1-117号
 連絡先：TEL：06-4797-6280 FAX：06-4797-6281 Mail：osaka-office@jimu.kyushu-u.ac.jp
 設 備：インターネット接続可能なPC（2台）、FAX・カラーコピー・プリンター兼用機、LAN配線、DVD・VHSプレーヤー、テレビ、打合せ用テーブル（イス12脚）等
 開 設：【平日】10:00～17:00（職員常駐）
 ※会議等での利用の際は、事前に大阪オフィスまで予約をお願いします。
 ※上記時間外及び土日祝祭日に利用希望の際は、大阪オフィスまでご連絡ください。



特別企画

関西 座談会

二〇〇八

二〇〇八年六月、「九州大学関西同窓会」が発足しました。二〇〇四年に設立された東京同窓会と並ぶ全学的同窓会として、今後の活動が大いに期待されます。

今回は、関西同窓会の設立発起人としてご尽力いただいたお三方に、東京からのゲストを加えて、母校と後輩への熱い想いを語っていただきました。

九州大学の 新たな 百年に向けて

関西同窓会からのメッセージ



座談会の出席者。前列左から、中野氏、荒巻氏、上野氏、藤井氏。後列左から、梶山総長、進行役の柴田副学長。

中野 健二郎

なかの・けんじろう

株式会社三井住友銀行
代表取締役副会長
関西経済同友会 代表幹事

1971年九州大学経済学部卒業、同年4月株式会社住友銀行（現三井住友銀行）へ入行。本店営業第一部長、取締役・証券部長、執行役員・投資銀行統括部長、常務、専務、副頭取等を経て2008年4月代表取締役副会長に就任。同年5月から関西経済同友会代表幹事。

荒巻 禎一

あらまき・ていいち

京都府京都文化博物館 館長
京都府公立大学法人 理事長
弁護士

1953年九州大学法学部卒業、同年4月自治省に入省。長崎県、京都府、静岡県での要職等を経て、自治大臣官房調査官、京都府総務部長、国土庁長官官房参事官、国土庁地方振興局総務課長、消防庁総務課長、京都府副知事。86年4月の初当選から2002年4月までの4期に亘り京都府知事を務める。02年11月、勲一等瑞宝章受章。

上野 至大

うえの・みちとも

西日本電信電話株式会社
相談役

1967年九州大学工学部卒業後、同年日本電信電話公社に入社。96年日本電信電話株式会社取締役相互接続推進部長、99年西日本電信電話株式会社代表取締役副社長、法人営業本部長を経て、2002年6月代表取締役社長就任。06年6月から同相談役（現職）。

藤井 龍子

ふじい・りゅうこ

大阪大学 招聘教授

1969年九州大学法学部卒業。70年4月労働省へ入省。婦人少年局婦人福祉課長、大阪府生活文化部長、労働大臣官房審議官等を経て、98年6月労働省女性局長。2001年4月内閣府情報公開審査会委員。04年4月から九州大学経営協議会委員。

梶山 千里

かじやま・ちさと

九州大学総長

1964年工学部卒業。専門は高分子化学。

進行

柴田 洋三郎

しばた・ようさぶろう

九州大学理事・副学長

1971年医学部卒業。専門は解剖学、細胞生物学。

同窓会は大学の アクティビティに直結する

柴田 このたび「第一回関西同窓会」を企画し、ご出席をお願いいたしましたところ、皆様にはご多忙な中万障繰り合わせてご出席いただき、誠にありがとうございました。このような座談会は東京ではこれまで三回開催しておりますが、今回は、待望久しかった関西同窓会の設立に合わせて、関西で活躍の皆様、母校九州大学への提言や、後輩たちへのメッセージなどを頂戴したいと存じます。どうぞよろしく願います。

梶山 東京同窓会に続く全学組織の関西同窓会の設立にご尽力いただき、本当にありがとうございます。特に荒巻さんには、会長の要職を引き受けていただき、心から感謝しております。同窓会の力は大学のアクティビティそのものに直結すると私は考えています。欧米、特にアメリカでは、同窓会の強い大学は非常にアクティビティが高いと言われます。

二〇一一年に控えております百周年記念事業を成功させることも

視野に入れて、今回の関西同窓会の設立を機に、関西でも同窓の皆さんの気運が高まりますことを期待しております。また本日は、大阪駅前第一ビルに大阪オフィスを開設いたしました。これは、関西の企業、同窓の方々と九州大学間の情報発信、取得に活用したいと考えております。また、関西の大学と九州大学との連携の場としても役立てます。大学間の協力関係づくりも今後の重要なテーマです。九州大学の関西におけるこのような活力の中心になっていただけるのが、関西同窓会ではないかと思っています。どうぞよろしく願っています。

教養部、田島寮、 フロントム・・・ 思い出は尽きない

柴田 では早速ですが、自己紹介を兼ねて、九大生時代の思い出などを話していただけますでしょうか。

荒巻 私はずば抜けて年上でございます。昭和二十八年に、新制九州大学の第一回生として卒業させ

ていただきました。法学部でございます。その後、いわゆる官僚の仕事に就き、最後の段階では知事として四期、京都府でお世話になりました。九大時代の思い出はとにかくたくさんあり、年を取るほどに懐かしいものになります。その中で一つ、二つ申し上げます。まず、テニス部の思い出です。新制大学に移行したてで、入学当時は大学の予算も運用も固まらない段階。私たちはテニスコートを持ちませんでした。私はキャプテンだったので、テニスコートが欲しいということで五万円の予算を大学からもらい、六本松キャンパスの芋畑だったところをテニスコートに仕上げました。当時でも普通だったら何十万もかかるところです。それが五万円でできたのは刑務所の囚人さんの郊外作業制度を活用したからなのです。でこぼこでイレギュラーバウンドばかりするコートでしたが（笑）。

それからもう一つ、強烈だったのが、今日はたまたま六月二十五日ですが、昭和二十五年のこの日に朝鮮戦争が始まったことです。

私は二年生だったと思います。家で友達と暮を打っている時に、ラジオでそのニュースが飛び込んできた記憶が今も鮮明です。その影響が結局、授業に及びました。板付の飛行場から米軍機が朝鮮半島に向かってひっきりなしに飛ぶ。三十八度線まですぐですからね。それが九大キャンパスの真上を行くものですから、授業が全く聞けないのです。とうとう皆が騒ぎ始め、当時の総長に騒音のないよう米軍に交渉に行ってもらいましたら、「大学を移転してしまえ」の一言でにべもなかったそうで、総長には気の毒なことをしました。そういうこともあり、昭和四十三年六月に、建設中の大型計算機センターに米軍のフロントムが墜落した時は、いろいろと胸に去来するものがありました。「戦後は終わった」とされたのが昭和三十一年くらいの経済白書でしょう。私の時代は学食の飯もあまりまとものものがなくて、白米にソースをかけて食べていたことなども強烈な思い出です。

上野 私の卒業はそのフロントム

が落ちる少し前でした。入学は三十八年で、電気系の学科に入りました。私は化学が好きだったので、高校時代は九大の応用化学科を目標にしていたのですが、いざ願書を出す段階になって、応用化学科は自分の実力ではハードルが高いと判断し、まずは九大入学ということで、志望を電気系学科に変えました。好きな化学ではなく、ちょっと苦手意識のあった電気系に入ったことは、自分のコンプレックスになりました。その上、周りにはそうそうたる進学校出身の同級生ばかり。私は鹿児島県のさらに一番南の県立高校で比較的のんびりと過ごしてきたものですから、「自分についてはいけるのか」とかなりのプレッシャーを感じていました。

幸いなことにこれがバネになり、創設されて間もない「電子工学科」に入りたいたいという思いと、大学院への進学を目指す勉強好きな同級生に刺激されて、六本松の教養部時代は自分の専門に役立ちそうな学科の講義だけは力を入れて勉強しました。現在、九州大学では全

学教育に注力されていることを聞くにつけ、もう少し専門外のこと、リベラルアーツに関心を持っていたら、別な人生を送っていたのではないかと思っています(笑)。幸か不幸か送りゼロで、奨学金とアルバイトで学費、生活費をやりくりせざるを得ないため、当月五百円の田島寮に入りました。

そこで、副寮長を務めさせていたのですが、ここでの「一人のお世話をする」という経験が、自分にとって大きな財産となったことを後々噛みしめることになりました。寮の自治をきっかけ、政治・社会問題にも関心を持ち、寮生の面倒を見ること、ある時はお詫びで、またある時はお願いと感謝の気持ちを込めて、近隣の方々に頭を下げることで、大学との交渉、寮祭など各種イベントの企画運営などを通じて、タテヨコの人間関係をバランスよく体験し、社会人になってからどんな人とも胸襟を開いて話をする度胸をつける一助になったように思います。恋愛の相談にものつていました(笑)。一方、学業面では四年生の卒業研究

で超伝導をテーマにしました。後に超伝導マグネットセンターを作られた、故入江富士男先生の研究室で、実験では苦心惨憺した記憶があります。幾晩も徹夜で頑張ったけれども、超伝導現象を現認するのは大変難しく、悔しい思いをしました。超伝導体の電磁現象を記述した、「入江・山藤モデル」

(注)の発表が昭和四十二年のこと、私が卒論に取りかかったのはその前年です。超伝導における電磁現象の理論的解析について、教授、助教授、助手、院生の皆さんが、それぞれ広く深い知識をベースにして、侃々諤諤の議論を重ねる。私自身は、ほとんど議論を聞いていただけでしたが、これが

学問研究の現実なんだなと、純粹に真理を探究する空気に打たれ、且つ、自分の知識不足を認識させられたことを覚えています。

就職は日本電信電話公社です。同社は通信の自由化と同時に、民営化され、経営形態はすべて急激に変わり、また、技術革新の洗礼も一番に受け、というよりもむしろ積極的に先取りし、対応しまし

た。事態は目まぐるしく変化し、私の四十年は、あつという間に過ぎたような感じですが。激流奔流の

平成二十年七月五日(土)には、九州大学田島寮祭最大のイベント「樽神興(たるみこし)」が行われました。六本松の伊都への移転で最後となった今回は、多くのOBも駆けつけましたが、その中に上野至大さんの姿もありました。「四十四年前の寮生」としてテレビ(KBC)のインタビューを受けた上野さんは、「安心しました。これだけの元気があれば、九大生は世の中をリードして行けますよ。」と答えていました。



樽神興の応援に来た上野氏(右)。左は九州大学学生寮同窓会会長の高橋義人氏。



環境変化にどう対応し、適応し、世のため、お客様のためにどんなことをすべきか、この一事を常に前向きに追求しながら、世界的変革の一端を担い変化をチャンスと一所懸命に尽力してきたなという思いです。その素地は九州大学で学び、皆さんに励ましをいただいたことで培われたものだろうと思っています。在学中は、人格識見に優れ、後に工学部長になられる五名の先生を含めて、世界的に評価される研究実績を残された先生方に講義していただき、親しく接しさせていただいたことも大切な糧になっています。今、九州大学では「大学院の重点化」が行われていますが、私のように学部で卒業する者もいますので、学部学生にも一方通行の講義だけでなく著名な先生に直接接することができきる機会をつくり、教育者、研究者のベースにある暗黙知を含めた人間力を感じることができれば、学生の心構えも変わってくるのでは、という気がしています。

中野 荒巻さん、私もテニス部です。私は昭和四十二年入学で、大

学紛争でほとんど授業がなく、九州大学の思い出と言えば、テニスをやったことくらいです。あまり強い選手ではありませんでしたが、九州のランキングで、私立大学以外ではトップの九位に入ったのが唯一語れる成績でしょうか。その代わりイベントはたくさんありました。エンタープライズが佐世保に入港し、皆で大同団結して現地に行ったこと。ファントムが落ちたこと。そんなことから、授業らしい授業はゼロ。私は経済学部ですが、実のところ、経済と違うところを志望していましたし、それ以前に授業がない。先生とわいわいやる自主ゼミがあったくらいです。卒業証明書はもらいましたが、授業を受けた記憶がないのにどうやって成績が決まったのか未だもって分かりません(笑)。銀行も希望して就職したわけではないのですが、学生時代の反動か、社会に出てから俄然いろいろな興味、好奇心が湧いてきたのです。会社で多岐にわたる分野を担当さ

せてもらったことも幸いしました。私は団塊と言われる世代です。友人達には弁護士や公認会計士など目標を設定して達成した人もいますが、大学でさえ勉学の機会がないのですから、かなりの人は中途半端な時代を送ったような気がします。でも、勉強の機会がないがゆえに、卒業してより強い好奇心がわいたということはありませんね。

柴田 私も昭和四十六年、医学部の卒業で、全く同じ世代です。中野さんのおっしゃるとおり、卒業してから一生懸命勉強した感じですよ。藤井さんも入学は私といっしょですね。

藤井 そうですね。まさに大学紛争の真っ最中で、ファントムが墜落した時は法学部の四年生だったと思います。事故は夜中だったの

(注) 入江・山藤モデル

超伝導現象を工学の分野で利用する研究の黎明期に発表された、この領域の原点になると言われている考え方。損失が無いはずの超伝導体において、交流電流を流したり、変動磁界を加えたりするときになぜ損失が発生するかを明快に解き明かしている。「山藤」は元工学部長の山藤警名誉教授

(文責：船木和夫 システム情報科学研究院教授)

で、翌朝、大学に駆けつけました。ノンポリでしたが、即「敵地」板付基地にデモに行きました。これが一番の思い出でしょうか。授業がないため、法学部の学生は司法試験の勉強をしている人が多かったですね。当時は男女雇用機会均等法もなく、四年制大卒の女性が就職するのは難しいどころか、不可能、あり得ない、という時代でしたので、私も三年生になってから司法試験の受験勉強に取りかかりました。ところが、自分なりに一生懸命したにも関わらず、努力不足か能力不足か不合格となり、もう一方で受けていた公務員試験に拾っていただき、労働省に入省しました。自治省で地方自治の仕事をする機会もあり、そのご縁だと思うのですが、一九九三（平成五）年から九五（平成七）年まで大阪府の生活文化部長を務めました。夢路いとし、喜味こいしさん、桂米朝さんもお元気な時分で、大阪府ではこの方々と浪花の文化を振興するという大変楽しい仕事をさせていただいております。ところが、平成七年一月十七日から



仕事および生活が激変することになります。阪神・淡路大震災です。災害対策担当部長でしたので、大変な仕事をする事になったわけです。その後、労働省へ戻り、退職後にまたご縁あって、大阪大学の招聘教授の任をいただきました。大阪とはいろいろな形でご縁が深いものですから、このたび関西同窓会をお立ち上げになられるという事で、ぜひにと同窓会に加えていただいたわけでございます。よろしくお願いいたします。

伊都への移転と、 国際感覚に富む リーダーの育成

柴田 本日に待望久しかった「九州大学関西同窓会」の誕生です。本日は大阪オフィスの開所式も行われ、同窓会とオフィスという関

西における活動の基盤ができました。これから皆様にご提言など頂戴する前に、梶山総長から九州大学の現状を説明していただきます。**梶山** まず伊都キャンパス移転の進捗が重要です。平成十七年から十九年までで工学系が全て伊都へ移転し、現在約五千人強の学生、教職員が活動しています。二十一年四月からは六本松キャンパスが移転します。六本松キャンパス移転は五年くらいかけて実施する計画でしたが、法人化の機動力もうまく使って、二、三年早く実現できることになりました。六本松キャンパスが移転すると、九州大学の重心は伊都キャンパスに移ります。

教育について、私ども執行部は、九州大学の学生に何が一番欠けているかを議論してきました。そうして出た結論が、国際感覚に富むリーダーシップ、積極性です。例えば、二十一世紀プログラムがあります。入学時点では所属の学部学科は決まっておらず、分野を越えて学びながら自分で専門を決めていき、それを大学のチューター

制度でフォローしていくという非常に手厚いコースです。学生には修士まで行つて、できるならば、国際公務員のような仕事に就いてほしいという思いがあります。四年間のうち半年から一年間外国に行くことも同プログラムの特徴です。

また、大学院に共通教育がないのは非常に問題で、大学院生だからこそ倫理やマネジメントをきちんと学んでおくべきだと考え、大学院の共通教育を始めました。例えばリーダーシップ論を古川貞二郎先生にお願いしています。また、カリフォルニアオフィスから、シリコンバレーを中心にベンチャーを起こした日本人やスタンフォード大の先生方の協力で、遠隔授業を行っています。

伊都キャンパスは、最先端研究の実証の場としても活用します。例えば、水素エネルギー利用社会の到来を踏まえ、「水素キャンパス」と銘打って、新エネルギー・産業技術総合開発機構と文部科学省の支援を受け、九州大学と産業技術総合研究所が共同で研究を推

進んでいます。それに加えて、エネルギーを包括的に研究しようというプロジェクトも行われています。今から五年、十年はおそらく石炭が注目されます。筑紫キャンパスを中心に炭素資源のクリーンな活用開発が行われます。九州大学には筑豊という炭鉱の歴史がバックボーンにあり、ノウハウの蓄積もあります。経済産業省の支援を受けて人材育成も行います。十年後は水素エネルギー。その先は核融合です。国際熱核融合実験炉（ITER）計画への貢献のため、九州大学、大阪大学、核融合科学研究所（NIFS）、フランス国立科学研究所（CNRS）、プロヴァンス大学の五機関が、共同で「磁場核融合研究に関する国際連携研究所（LIA）」を発足させました。日本側のオフィスは九州大学にあります。

東アジアの発展に伴う環境への影響を最も大きく受けている地域にある九州大学にとって、東アジアの環境問題は率先して取り組むべきテーマです。既に学内の専門家を課題毎に組織し、中国や韓国

など東アジアの主要大学と連携してプロジェクトを立ち上げています。最後にもうひとつ紹介したいのが、「オートモーティブサイエンス」という新しい大学院専攻の立ち上げです。これは機械系など既存の組織とは一線を画し、心理、デザイン、将来予測などを含む文理の壁を越えた総合的な教育、研究の場です。九州大学だけではなく、福岡女子大学や、西南学院大学の研究教育陣にも手伝っていたり、だく計画です。また、ユーザーの視点や感性を出発点に、真に社会に喜ばれるものづくりにつなげていける人材の育成を目的とする「感性大学院」も設置する予定です。

関西と九州大学から アジア、世界を見る

柴田 九州大学は教育も研究も非常に活発化していると自負しています。では、九州大学は関西で何ができるのか。このようなことも含め、お考えをお聞かせいただきたいと思っています。

荒巻 梶山総長のお話を伺い、大

変素晴らしいことをやっていただいているなど、意を強くいたしました。中でも国際感覚を伴うリーダーシップについて、九州大学はアジアに一番近いのですから、アジアに対する貢献をしてほしいと感じております。関西からの希望といえば、関西の勢力が強い時には九州や四国の優秀な人材は当地に流入し、定着してくれる傾向があります。ところが、最近、大阪の元気がないという問題もあって、勢力がどんどん東京に移っており、我々は危機感を募らせているところです。ぜひ関西の活性化、発展のためにも、九州大学が関西に対する縁をこれまで以上に深めていただくことを願っています。



たいですね。どんな鍛え方がいいかというところ、即戦力であればいいのか、基礎がきちんとしていければいいのか、文化や倫理性を含めた人格形成がいいのかは、時代によって変わりますし難しいところです。ただ最近では、即戦力型の人が企業に採用されやすいという傾向があるように思います。しかし、大学は職業訓練校ではないのですから、即戦力ばかり求めたら、真の意味では大学の存在価値はないと考えます。私には、やはり長い目で見れば、会社や社会のためには、基礎的なものきちんとやっていただきたいという気持ちがあります。昔の七帝大時代と比べ、今の九州大学の存在感がブロックの中でこじんまりしてきた感じを受けます。国家公務員試験にしても、以前は東大、京大の次に、九州大学と東北大学とが争うような時代があったように記憶しています。大学間に企業と同じ競争原理が働いている以上、それくらい存在感を鮮明に示していただきたいという思いはあります。



對抗軸で考えると、視野や考え方が小さくなる。変革の途にある九州大学は、ぜひ独自色を出していただきたい。〔中野〕

上野 「二十一世紀プログラム」や「全学教育」「大学院重点化」など本当に素晴らしい仕組みが用意されていると思います。一人一人が自主的に考え、対応するような学生が育つでしょう。私の頃は、特に教養部には入学早々投げつけられたような感じでしたから、大変な違いだなと感嘆しています。先ほど九大生がおとなしいという話がありましたが、私の知っている九大出身者を見る限りでは、決しておとなしくはありません(笑)。一般的に九大生には九州男児というイメージがあつて、そういう先入観の反動で、目立った動きが無ければ、ちょっと軟弱だなというふうに結びつけられてしまうところがあるのではないのでしょうか。逆に言えば、もっと骨太の活躍をしてほしいという期待が大きいのだらうと思います。それだけ先輩の皆さんが活躍をされてきたという点でもあるでしょう。企業は

特定の人材を除いては、大学で習得した知識そのものについては一般的にはさほど関心はありません。それより、これこそ自分の専門だと言えるような知識を必死になつて習得しようとする過程で培われた、進取・挑戦・自助・自立・忍耐・責任という普遍的で基本的な素養に期待しています。このたびの新しい改革の中でさらに逞しい、自信を持った人間が育ち、世界に通用するパワフルなリーダーが輩出され「おとなしい」という評価が自ずと退くことを期待しています。

アジアのリーダーになつていただきたいというのは、本当に悲願ですね。アジアのリーダーとは、世界のリーダーということにつながっていくわけですけれども、アジアといったら九州大学に任せてくださいというくらいの勢いでやっていいと思います。各研究院のプロジェクトはユニークであり、分野を越えた統合的な取り組みが進化し、更には国内外のユニークな特徴を持つ大学間の連携をリードできれば、「九大ブランド」が

確立していくものと期待しています。エネルギー開発事業や環境への取り組みについても期待が高まります。更に先進国の中でも日本は非常に災害が多い国。それに対応できるノウハウを持っている訳で、アジアで活かせることも多い。

「安心・安全」と「共生」というキーワードで、災害予知から防災・復興までを「こころ」の領域まで含めて九州大学が担うことができるといえるでしょう。大学は、サイエンスという立場で超長期的な視点に立ち、しがらみなく自由に発信ができ、思いきったことが言える、そういうポテンシャルを持った存在です。ぜひ、新しく世の中を変えていくというスタンスで、アジアの大学との連携も含めて、頑張ってくださいとおります。

中野 銀行の仕事を通じて、国立大学法人化後、東大、京大、阪大、九大と接点を持つことができました。研究のことはあまり知らないままで、今日、非常にパワフルな展開をされていることを聞き、改めて驚きました。九州大学は「九州大学ら



しさに向かって変革の途にありますが、ぜひ独自色を出していた
だきたい。私は関西経済同友会の
関係で取材される時、「大阪は東
京と比べてどうですか」という質
問をよく受けます。でも、大阪と
東京とを対抗軸で考える必要はな
いというのが私の考えで、大阪の
独自色を忘れないことこそ重要だ
と思っています。対抗軸で考える
と、視野や考え方が小さくなりま
す。関西とアジアとの関係は非常
に深いものがありますが、同様に
九州大学はエリア的にも一番アジ
アに近いでしょう。九州大学も広
い視野で、東アジアを統べるよう
な、環境やエネルギーなどのプロ
ジェクトをどんどん推進して、日
本の大学の中で九州大学が最も進
んでいるという領域を確立するこ
とが、これから一番大事なことで
と考えます。

海外でも、ハードパワーに対し
て、ソフトパワーということが言
われます。ソフトとは仕組み
のこと。その仕組みこそ目線を広
げる鍵だと私は思っています。私
は証券関係の仕事に十年近く携わ
って、NY、ロンドン、シンガポ
ール、香港など世界の金融都市の
さまざまな銀行、そのトップと交
流しました。その中で自分の目線
が変わっていくのです。国内の目
線でものを捉えていたのが、グロ
ーバルになっていく。そういうこ
とは実際に経験しないと分かりま
せん。学生の間ですからすべては
網羅できませんが、ぜひ学生の目
を開かせる、海外との交流の仕組
みを作っていたいただきたいです。

藤井 私は東京の霞ヶ関で仕事を
する一方、二年間少々ですが、大
阪府庁で働かせていただきました。
お叱りを受けるかもしれませんが
(笑)、正直に言うと、その時に
東京と大阪の違いを非常に強く感
じました。東京は「タテマエ」で、
大阪は「ホンネ」の世界。福岡、
九州はどちらかというと、東京文
化圏ですね。日本の文化というの
は歴史的に見て上方が中心で、そ
こから同心円的に広がっていきま

すから、九州は東京と同じ円周上
に位置します。日本国内でも、ず
いぶん文化や考え方の違いがあり、
その点が大変重要なことだと思っ
ます。ですから、「ホンネ」しか
通用しない土地柄にある関西同窓
会が、東京や福岡とは違った性格
を持って、九州大学の未来につい
て、いろんな形で支援をしていた
たくというのは大変ありがたいこ
とではないかと思えます。

私は九州大学の経営協議会に委
員として参加していますので手前
味噌になるかもしれませんが、九
州大学が二十一世紀プログラムを
はじめ、新しいやり方にチャレン
ジされていて、それは成功してい
るのではないかと思っています。
伊都キャンパスへの移転は、「新
しい革袋」に「新しい酒」を盛る
ような作業でなければいけないと
思います。通常は逆で、「新しい
酒」は「新しい革袋」というこ
となのでしょうか、あえて「新し
い革袋」には「新しい酒」をと申
し上げたい。二十一世紀プログラ
ムのような、国際的に通用する広
い視野をもった人材の育成に果敢



変化に伴う苦労はあるだろうが、後になって、自分たちが主役の草創期だったと言える。頑張り方をしてほしい。【荒巻】

に挑戦していただき、九州大学メソッドといったものを教育の分野でも開発していけば、大学の独自性が濃厚に香り出すのでは、と感じております。

梶山 私が総長になった時、九州大学の将来構想のベクトルの一つとしてアジア指向を掲げました。すると、学内からでさえ「アジアだけか。なぜ世界に挑戦しないのか」と指摘されたのですが、アジアへ挑戦することは、世界に挑戦

することです。これほど激動しているアジアを見なかったら、日本は世界から置いてきぼりを食うでしょう。

九州大学は、アジアにも多くのオフィスを持っています。ソウル大学にも九州大学のオフィスがあり、ここを通じて韓国の首相に会うなど活用しています。シリコンバレーでは毎年三月に一週間かけて「ロバートファン・アントレプレナーシップ・プログラム」を実

施しています。ファン氏は九州大学の元留学生で、コンピュータ関連企業を起こして、アメリカで大成を収めた人物です。このようにアジアから世界へという仕組みも段々できています。

今こそ新九大草創期

柴田 関西同窓会の開設で、今回のように諸先輩方のご意見を伺える機会ができました。最後になりましたが、ぜひ関西らしい本音で、後輩に対する激励をいただきたいと思えます。

荒巻 私は制度の変わり目にはかり生きてきた人間です。旧制大学から新制大学になった時もそうですが、さかのぼると、尋常小学校から国民学校の変わり目にも立ち合わされました（笑）。それだけに今回、国立大学法人となり、しかも新しいキャンパスに移る今の九大生諸君に、何か親近感を感じています。私が九州大学を卒業する年は、旧制大学三年生と新制大学四年生が同時に社会に出るものですから、就職の倍率は単純計算

でも二倍。さらに一年長く勉学している旧制から採用されていくものですから、新制の私たちには、受験のチャンスさえもないという厳しい状況でした。皆さんも変化に伴う苦労はあるでしょうけれど、新しい施設や教育への配慮などプラスの要素がはるかに多いのですから、後になって、自分たちが主役の草創期だったなと思いたいような頑張り方をしてほしいと願っています。

上野 今回の改革は学生にとって素晴らしい内容で、自分たちがいた頃に比べると本当に勉強しやすい環境になっていると思います。気合いを入れて、今この時を有意義に過ごしていただきたい。私の学生時代は「カネもち」ではなかったが、可処分（かしょぶん）という意味では「トキもち」ではあったはずですが、今思えば「あの時やっていれば」ということばかりです。「志」を実現するかどうかは自分しか責任を負えないのが人生。時間はさかのぼれないのだから、今いる時間、環境の中で自分なりに目標と実行マイルストーン

風工学

FRONT
RUNNER

シリーズ研究

ふろんと
ランナー

応用力学研究所 海洋大気力学部門 教授

大屋裕二

おおや ゆうじ

「ふろんとランナー」は、九州大学の研究の最前線をインタビュウで紹介するシリーズです。
シリーズ第九回目は、応用力学研究所の大屋裕二教授に、薬学研究所の石井祐次准教授が聞きます。

聞き手 薬学研究所 石井祐次 准教授

超高効率な発電性能を有する
風レンズ風車の開発により、
「平成二十年度科学技術分野の
文部科学大臣表彰 科学技術賞」を受賞

常識のタガを
はずして生まれた
逆転発想の風車

石井 平成二十年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞の受賞、おめでとうございます。今日、この筑紫キャンパスを歩いて、今回の先生の受賞業績である「風レンズ風車」を見てきました。風レンズというネーミングもユニークで透明感があって良いですね。

大屋 今から七、八年前に工学研究院の航空宇宙工学部門の桜井晃先生（現在、QPS研究所）から風力工

ネルギーを有効利用するための研究に参加しないかとお声がかかり、その研究メンバーで今は佐世保高専の校長をしてある井上雅弘先生が、当初「波レンズ」というのがあったから、これは風レンズでいこう」と言われたのが始まりです。レンズが光を収束するように、私たちの風車も吹いてくる風を集め、ブレードに強く当たる仕掛け。皆の賛同を得て、定着したものです。

石井 確かに形もユニークです。この形が受賞の業績名にも入っている「超高効率な発電性能」をもたらすのですね。



VOL
9

大屋 風力エネルギーの有効利用で最たるものは風力発電だということ
で一致し、従来にない高出力の風車
発電システムの実現を目指そうとい
うことになりました。普通の風車で
は面白くない、というこだわりから
生まれたのがこの形です。

石井 まず気づくのが、プロペラを
囲む筒です。

大屋 これが集風体です。風車によ
る発電量は風速の三乗に比例します
から、できるだけ風を増速させる構
造であることがポイントになります。
そのポイントは大きく二つあります。
まずひとつはメガホン状に風車を覆
うデیفューザ。ちよつとメガホン
を想像していただきます。石井
先生は口の狭いほうと、広いほう、
どちらを上流にしたほうが集風でき
ると思いますか。

石井 広い口が上流にあったほうが
たくさん風を集めそうですが。

大屋 専門家でもそう答えます。し
かし、答えは逆。出口が大きいこと
が大事です。出口側がやや圧力が低
くなって流れが入りやすくなるので
す。これを教えてくれたのが自然の
現象。例えば山の風穴で、狭い穴に
風が入っていく場合は、必ず出口が
あって、そこは入り口よりも低圧に

なっているのです。風は圧力の低い
場所が好きなのでね。そうしたい
くつかのアナロジーから風レンズの
最初のタイプが生まれました。そし
て、二つめのポイントがデیفュー
ザの出口についている「つば」。長
いデیفューザのほうが入り口付近
の風は速くなるのですが、短いデ
یفューザで速い流れを作りたいと考
え、「つば」と称して、渦形成板を
取り付けました。渦形成板による強
い渦は出口の圧力をさらに低くする
効果があります。

石井 聞けばなるほどと思いますが、
かなり奇抜な着想だったのではし
ょうね。

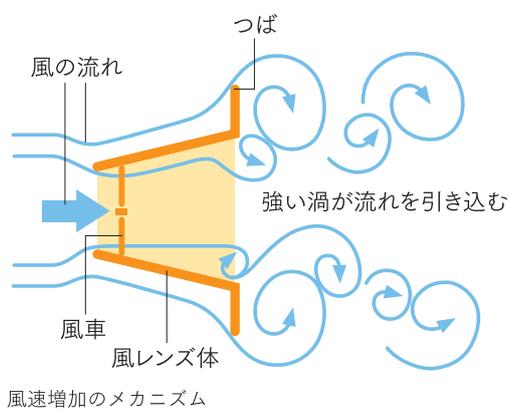
大屋 渦は、飛行機や自動車の抵抗
を増加させて燃費を悪くしたり、ジ
エットの轟音を起こしたりと、流体
機械や輸送機器にとっては悪さばか
りするやつかいもの。もともと私は
強風の災害に関する研究を主として
いて、本州四国連絡橋や明石海峡大
橋など強い渦を作らないような耐風
設計にも関わってきました。渦の問
題行動とは長い付き合いです(笑)。
かつては「渦はろくでもない」
でしたが、今では「渦は大歓迎」に
なり、渦を活用する方向で非常に役
立っているわけです。思えば、この

研究グループに誘われたのも、風を
制御するのではなく、風の恩恵を被
りたいという気持ちが生えていた
時。風力エネルギーの利用は自然工
ネルギーの時流にも乗り、社会の役
に立てるということでのめりこんで
いきました。まさにタイミング、つ
まり卒啄の機だったと思います。

大型浮体構造物による 洋上風力発電は、 原発一基分に相当します

石井 風レンズ風車の登場で、風力
発電が発電の主力になる可能性もあ
るのでしょうか。

大屋 そうなってくれたらいいなと
思いますね。本研究の発起人でもあ



10MW級が数十台の洋上ファームで原発1基分に相当

分くらいは軽く賄える計算です。

石井 風車設置の適切な場所を見つけるプロジェクトも走り始めているのではないですか。

大屋 風車の適地選定や風車立地後の発電量予測を行う上で、高精度な風況予測が不可欠になります。風は自分の通りたい道があって、ちよつと離れると、風速が全く違ったりします。その風の通り道をピンポイントで見つける研究も進展していて、すでに日本国内はもちろんパタゴニアや中国で実績を確立。私たちの風況予測は世界的展開をしています。

石井 かなりの確度で予測できるものですか。

大屋 私たちのリアムコンパクトというソフトは、九十%以上の高確率。国内電力会社や大型風車を建設する世界の大手ディベロッパーもソフト開発していますが、リアムコンパクトの精度は世界トップランクという評価をいただいています。特に日本

は複雑地形で、海岸線まで大地や山が迫っており、せつかく良い風が吹いてきても乱れた風になります。設置場所を予測することは日本では特に大切です。

石井 風力エネルギーは日本のエネルギー自給率に大きく貢献しそうですね。

大屋 本研究会のスタート時には予想だにできなかった展開になってきているのは事実。長崎の三菱重工業も風車事業の先駆けですが、七、八年前には研究者が数人しかいない縮小事業になってしまったのです。ところが、今では同社の有力部門に成長しています。世の中の流れはわかりませんね。私自身、二年ほど中国へ行き、砂漠の灌漑用の風車を造ってきたのがついでこの間のことなのですが、研究者になった時は考えもしなかった成り行きです。

石井 先生にとって研究が面白く、嬉しい瞬間とはどんな時ですか。

大屋 ある程度予想を立て、その通りになった時はもちろん嬉しいけれども、予想が外れた時もワクワクする瞬間です。実際、研究をしていると、横道に反れていくことのほうが多くて、それで途中でへんなことが起こるのです。例えば、ある流体力



聞き手：石井祐次准教授

言わないことをルールにしたのです。学生を交える時などは、無茶苦茶なアイデアも飛び出して、「そんなバカなことできるわけない」と内心では思いながらも、「それ面白いね。ちよつとやってみようか」と実験していくのです。それがあったからこそ、「つば付きディフューザ」という逆転の発想も生まれ得たと思います。

時に遠回りも楽しみながら、「セレンディピティ」を磨こう

石井 その自在で柔軟な発想にもつながるのですが、大屋先生は、不思議な現象も大好きとお聞きしました（笑）。

大屋 実は航空工学を専攻したのもUFOに興味があって、空飛ぶ円盤でも作れないかなと馬鹿みたいな考えに支配されていたから（笑）。そんな人間だから、大学工学部の普通の勉強には関心がわなくなって、三年の時には心理学に転向しようと思っていたのです。学校に行かなくて、結局留年したのですが、とあることがきっかけで航空工学の道に戻り、卒業までこぎつけたという次第です。

石井 “とあること”をぜひお聞か



大屋裕二教授

せ願えませんか。
大屋 四年になって初めて研究をさせてもらったのです。とはいえ、その時の研究指導をいただいた先生が放任主義がモットーで、勝手にやりなさいよという具合。でも、それが良かった。手探りでやり始めて「研究というのは結構面白いものだ」となり、大学に残って博士号を取りました。大学でも授業改革が叫ばれているけれども、自分で問いを持たなければ、授業が面白いはずがないのです。その元凶が問題を与えられて初めて考える小学から高校までの授業だと思えます。大学に合格するまで解答マシーンになるような教育しか受けていないから、入学しても問題を考えることができない。幼児の頃は大人を質問攻めにしてはいた



中国甘肃省武威：風車タワーに「中日合作」「聚風発電」と書いてあります。

ずなのに、早くも小学校時代には問いかけることを忘れているのです。これでは頭は閉塞します。ですから、私は、「問題を解きなさい」ではなく、「問題を作りなさい」という試験問題を出すことがあります。学生に問いを持ってほしいわけです。学問に限らず、もつと普遍的な深い問いのほうがお良いですね。簡単に答えの出ない問いを追求するほど人生を思いがけない展開へいざなわれるような気がしますので。心理学に転向しようと思ったのも、結局はその理を追求したかったから。宇宙のことを科学的に調べるよりも、そもそも人間とは何か、何で生まれてきて、何で今、自分が自分で、この時間帯に生きているのか、とかいろいろ考えるほうに興味を感じたので

石井 最後に、九州大学や大屋先生の授業を目指して来る受験生たちにメッセージをいただけますか。
大屋 一番言いたいのは、展開は変わるということです。例えば、第一志望の大学学部合格することは今のあなたにとって、最も価値あることかもしれません。でも、今の価値観が「全て」ということはまずあり得ません。裏を返せば、何回でもやり直しできるということ。だから、

すね。結構、遠回りをしています。
石井 でも、一見無関係に起こっているように見えることが、無関係ではなかったということはありませんね。
大屋 実際、私の研究室では強風災害、耐風工学、風環境に関する研究が主流で、風エネルギーの利用に関する研究は領域外でした。それが、いろいろな人、コトが核心ではなく縁（ふち）から動き出して、まさに縁（えん）になっていった。風レンズの研究は航空宇宙工学部門の諸グループをはじめ、機械科学部門グループ、海洋システム工学部門、総合理工学研究院流体環境理工学部門、人間環境学研究院など横断的な研究グループへと発展し、九州大学の学際研究の中ではかなり成功している事例だと思えます。



左より、大屋裕二教授と、聞き手の石井祐次准教授（右）。

受験も大きな気持ちでリラックスして臨んでください。私としてはむしろ遠回りの豊かさをお勧めしたいところです。

(*1) 1 MW (メガワット) は千 kW

大屋裕二教授 プロフィール

一九五二年二月生まれ。福岡県出身。一九八一年九州大学工学研究科応用力学専攻博士後期課程単位取得退学。同年四月九州大学助手採用。一九八四年四月熊本大学助手。一九八六年三月熊本大学講師。同年四月九州大学助教授。一九九七年四月九州大学教授、現在に至る。
専門分野は、風工学、大気環境工学、気象学（地表に近い大気）、航空宇宙工学。

プロバンス大学において「磁場核融合研究に関する国際連携研究所（LIA）」の開所式典



開所式で祝辞を述べた(左から) ベンカダLIA共同ディレクター、カペルーニプロバンス大学学長、伊藤LIA共同ディレクター、プレシニアックCNRS総裁、池田ITER機構長、テヴァンド材料科学研究科長

平成二十年五月十三日、プロバンス大学において「磁場核融合研究に関する国際連携研究所（LIA）」の開所式典が行われました。平成十九年十月二十二日に九州大学にて国際連携協定に調印しLIAを正式に発足させましたが、今回はプロバンス大学において式典を行い、オフィスの開所式もあわせて行いました。

九州大学からは日本側の共同ディレクターである伊藤早苗教授と矢木雅敏教授が来賓として出席しました。式典では、プロバンス大学学長のカペルーニ教授の開会の挨拶に続いて、プレシニアックCNRS総裁、池田ITER機構長、材料科学研究科長テヴァンド教授が祝辞を述べ、その後、日本側の代表として核融合科学研究所理論・データ解析研究系主幹の大藪教授（本島所長の代理）、伊藤早苗教授がそれぞれ祝辞を述べました。最後にフランス側の共同ディレクターのベンカダ教授が現在までのLIA活動の報告及び閉会の辞を述べました。

午後から祝賀パーティが開かれましたが、さすがフランス、国旗、校旗をかたどったケーキとシャンパンで乾杯しました。

新装置QUESTでプラズマ生成

応用力学研究所 高温プラズマ力学研究センター（佐藤浩之助センター長）では、かねてから建設を進めてきた「長時間維持球状トカマク装置QUEST」が本年三月末に完成し、六月二十六日（木）に関係者約一五〇人の出席のもと装置の完成を祝いました。

その後、梶山総長や来賓の文部科学省研究振興局徳永局長、核融合科学研究所本島所長らが見守る中、初めてのプラズマを生成することに成功しました。

この成功により、長時間維持の球状トカマクプラズマの研究が本格的に開始できることとなり、日本はもちろん、世界のこの分野の研究者からの期待が集まっています。



完成した「長時間維持球状トカマク装置QUEST」

「花の色はうつりにけりな ―絵画と文学の交響―」 開学記念講演会



平成二十年五月八日（木）、九州大学創立九十七周年記念講演会」が、アークロス福岡イベントホールで開催されました。

今回の講師は、美術評論家で大原美術館館長の高階秀爾氏で、テーマは「花の色はうつりにけりな 絵画と文学の交響」。

西洋では、詩と絵画は兄弟であり、それ故に別々の表現であったのに、日本では、古くから絵と文字が密接につながってきたことを、和歌を中心に、多くの絵画や美術品を例示しながら分かりやすく説きました。

講演終了後の質疑応答で、司会の北山修人間環境学研究院教授が「日本のテレビで、歌っている歌手の映像に歌詞が出てくるのはなぜかと思っていました。謎が解きました。講演は、歌が聞こえてくる音楽の時間のようでした」と感想を述べ、市民の方々が満員の会場は拍手に包まれました。

また、平成二十年五月十二日（月）には、平成二十年度開学記念式典が五十周年記念講堂（箱崎キャンパス）で執り行われました。

式次第

- 九大フィルハーモニーオーケストラ 演奏
- 総長挨拶
- 感謝状贈呈
- 名誉教授称号記授与
- 研究・産学連携活動表彰
- 九州大学C&C総長表彰及び発表会
- ロバートファン・アントレプレナーシップ・プログラム報告会
- (財)九州大学後援会助成金授与式及び助成事業発表会

アメリカ大統領選挙『民主党VS共和党』 公開討論会



平成二十年四月二十三日（水）、在福岡アメリカ領事館広報部（福岡アメリカンセンター）との共催により、アメリカ大統領選挙を争う民主党と共和党のメンバーによる公開討論会を六本松キャンパスで開催しました。

民主党からはロバート・（スキップ）M・オア氏（バラク・オバマ上院議員選挙対策事務所アドバイザー）、共和党からはクリストファー・J・フュスナー氏（リパブリカンズ・アプロード・グローバル・チェアマン）が来学され、教育政策、イラク問題等に対する両党の考え方の違いなど興味深い討論が展開されました。

会場からは、環境政策や農業・食糧問題、アジア政策などについての質問が次々となされ、アメリカの政治や大統領選挙に対する関心の高さがうかがえました。

参加した学生からは「生の英語に触れ、グローバルな視点から様々な問題を考える機会を得ることが出来て非常に有意義だった」などの声が聞かれました。

学生の皆さんへ!!

言語文化研究院箱崎分室

平成20年度後期 言語文化自由選択科目 開講案内

(2008年9月29日(月)より授業開始)

[重要]平成20年度入学の1年生のみなさんへ

※箱崎分室の英語科目の授業は原則として2年次以降の学生を対象としているので、みなさんは受講できません。英語科目以外の授業については「入門〇〇語」と表示された科目のみ受講可能です。

平成20年度後期時間割 *印は伊都地区にて開講されます

時限	月	火	水	木	金
1	英語リスニングⅡ (アンスコム飯野)		入門中国語Ⅱ(李)	英語会話Ⅱ (アンスコム飯野)	
2	英語ライティングⅡ (アンスコム飯野)	英語リーディングⅡ (稲葉)	英語リーディングⅠ(小松) 中国語聞き取りⅡ(李)	英語リスニングⅠ (アンスコム飯野) フランス語作文コース (羽賀)	
3	入門ロシア語Ⅱ(佐藤)			入門インドネシア語Ⅱ (遠藤ファビオラ)	
4	ドイツ語読解演習Ⅱ(田畑) 入門イタリア語Ⅱ(スリス) 英語会話Ⅱ*(ホール)	英語プレゼンテーションⅡ (山下)	入門フランス語(田中陽子)		英語会話Ⅰ*(ホール)
5	英語リーディングⅡ(大谷) ドイツ語リスニング演習Ⅰ (カスヤン) 速修エスペラントⅡ(田畑) 英語テスト・テイキング*(ホール)	入門ドイツ語(岡野) 韓国の言語と文化(松原)	英語ライティングⅠ (アームストロング)	英会話Ⅰ (ブルックス) 表現スペイン語 (フジヨシ)	ドイツ語発音演習(田中俊明) フランス語実用会話(ホスーシユ) 時事スペイン語(柿原) 英語プレゼンテーションⅡ*(ホール)
6			英語会話Ⅱ(アームストロング)	英会話Ⅱ (ブルックス)	英語テスト・テイキング (クイン)

英語科目を受講するには、プレイメントテストを受けるか、TOEFL・TOEICのテストスコアが必要です。詳細は開講案内またはホームページ等でご確認ください。

●プレイメントテスト日程

9月25日(木)	(1) 9:00-12:00	(2) 13:00-16:00	(3) 18:30-21:30
9月29日(月)	×	×	(4) 18:30-21:30
9月30日(火)	(5) 9:00-12:00	(6) 13:00-16:00	(7) 18:30-21:30
10月1日(水)	(8) 9:00-12:00	(9) 13:00-16:00	×

場所：言語文化研究院 箱崎分室 304大講義室
(筆記用具を持参して、開始時間厳守の上、直接会場へお越しください。)

●受講受付期間

(学部生優先ですが、院生・留学生・教職員も定員内一定枠で受講可能です。)

受付期間 9月22日(月)～10月10日(金)

(詳細はホームページ等でご確認ください。)

●詳しい講義内容・受講申込みの内容および移転場所につきましては、『開講案内』を言語文化研究院箱崎分室、六本松地区全学教育教務係及び各学部の学生係、図書館、生協にて配布を致します。

●移転のお知らせ

言語文化研究院箱崎分室は平成20年3月に移転を致しました。平成20年後期の受講受付及び授業は移転先にて行いますので、ご注意ください。



【場所】箱崎キャンパス内 旧工学部三号館 (50周年記念講堂隣り) 北棟3階

【問合せ先】大学院言語文化研究院 箱崎分室 (平日8:30～20:00 ただし火曜日は17:00まで)

ホームページ: <http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~flcbr/>

TEL&FAX : 092-642-2285 E-mail : flcbr@flc.kyushu-u.ac.jp

平成20年度 就職等ガイダンスのお知らせ

これから実施される「就職や進学のためのガイダンス」についてお知らせします。
 たくさんの皆様のご参加をお待ちしています。詳細については、部局掲示板及びホームページ（九州大学HP→学生の皆様（の「お知らせ」及び）→就職支援）等でお知らせします。

開催日時・内容等に変更（追加）がある場合がありますのでご注意ください。※主な対象以外の方もぜひご参加ください！！

企業希望者向け

	日時	開催場所	内容等	主な対象
第3回	H20年10月3日（金） 16:40～	箱崎理系地区 国際ホール	企業への就職ガイダンス（3） 外国人留学生のための就職ガイダンス ～日本における留学生留学生のための就職活動について～（就職相談員）	外国人留学生 企業就職希望者
第4回	H20年10月8日（水） 18:30～	箱崎文系地区大講義室	企業への就職ガイダンス（4） 最新の就職戦線について、自己理解・企業研究 （リクルート）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第5回	H20年10月15日（水） 18:30～	大橋地区 5号館 511講義室	企業への就職ガイダンス（5） 就活のすすめ方 -自己分析・業界研究・企業が求める人材-（メディア総研）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第6回	H20年10月18日（土） 13:00～	箱崎文系地区 大講義室	企業への就職ガイダンス（6） 自己分析とエントリーシート （就職相談員）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第7回	H20年10月20日（月） 18:30～	筑紫地区 総合研究棟 筑紫ホール	企業への就職ガイダンス（7） 理系学生における進路決定への道 （毎日コミュニケーションズ）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第8回	H20年10月22日（水） 18:30～	伊都地区 西講義棟 第1講義室	企業への就職ガイダンス（8） エントリーシート及び面接に向けた業界研究・会社研究・自己分析 （ジェイロード）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第9回	H20年11月5日（水） 18:30～	箱崎文系地区 大講義室	企業への就職ガイダンス（9） 人事担当者・就職内定者を招いてのパネルディスカッション （企業、就職内定者、リクルート）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第10回	H20年11月7日（金） 17:30～	箱崎文系地区 201講義室外	企業への就職ガイダンス（10） 就職セミナー（文系対象） （共催：学学生会）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第11回	H20年11月8日（土） 13:00～	伊都地区 西講義棟 第1講義室外	企業への就職ガイダンス（11） 就職セミナー（文理系対象） （共催：学学生会）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第12回	H20年11月12日（水） 18:30～	箱崎文系地区 大講義室	企業への就職ガイダンス（12） 学生として、社会人として～モラル・マナーの重要性～ （共催：財団法人学生サポートセンター）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第13回	H20年12月10日（水） 13:00～	箱崎文系地区 301講義室外	企業への就職ガイダンス（13） フォローセミナー（文理系対象） （共催：学学生会）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者

公務員希望者向け

	日時	開催場所	内容等	主な対象
第3回	H20年11月1日（土） 10:30～	箱崎文系地区 中講義室外	公務員への就職ガイダンス（3） I種中央省庁セミナー （共催：人事院）	公務員希望者
第4回	H20年11月8日（土） 9:30～	箱崎文系地区 大講義室外	公務員への就職ガイダンス（4） 官庁業務合同説明会（II種） （共催：人事院）	公務員希望者
第5回	H20年11月26日（水） 18:30～	箱崎文系地区 大講義室外	公務員への就職ガイダンス（5） 国家公務員I種合格者体験報告会 （公務員採用試験合格者）	公務員希望者
第6回	H21年1月14日（水） 12:30～	箱崎文系地区 大講義室外	公務員への就職ガイダンス（6） II種中央省庁セミナー （共催：人事院）	公務員希望者
第7回	H21年3月13日（金） 13:00～	箱崎文系地区 101講義室外	公務員への就職ガイダンス（7） 国家公務員等採用試験説明会 （人事院、国税局、労働局、裁判所、国立大学法人等）	公務員希望者

その他

	日時	内容等	主な対象
	H21年2月～3月予定	学内企業セミナー 平成21年度卒業・修了予定者の企業セミナー	学部3年生 修士1年生
	H20年11月～12月予定	就職支援基礎セミナー 平成21年度卒業・修了予定者対象 ①「就職活動の心得」講義形式の基礎講座	学部3年生 修士1年生
	H20年12月～H21年1月予定	就職支援基礎セミナー 平成21年度卒業・修了予定者対象 ②「面接の心得」模擬面接	学部3年生 修士1年生
	H20年11月予定	自己表現能力育成プログラム 学生の企業への就職や研究活動に必要なプレゼンテーション能力の育成	学部生 大学院生
	H20年9月～11月予定	英語コミュニケーション能力育成プログラム 就職支援活動の一環として、TOEICの得点向上支援	学部生 大学院生

3月

九大の女性研究者が上川小で出前授業 (北海道 3/12)

4月

九大に研究施設 稲盛財団が寄贈 (沖縄タイムス 4/1)

ひと 九州大病院長に就任した心療内科医 久保千春さん (西日本、南日本 4/2、26)

九大と駅結ぶ 路線バス運行 伊都キャンパスで式典 (読売、朝日、毎日、西日本 4/2)

九州歴史資料館 新館長に西谷氏(九大名誉教授) (西日本 4/2)

九州先端科学技術研究所 所長に新海元九大教授 (読売、西日本 4/2、4)

日本実存療法学会 五日に九大で開催 (読売 4/3)

西区内北地区住民 九大研究者と交流 特産力キヨミ意見交換 (西日本 4/3)

広がる二十四時間往診連携携尾形裕也医学研究院教授 (読売 4/3)

看護に外国人戸惑う現場 平野裕子・九大准教授に聞く (朝日 4/4)

時評 小説 文芸批評伴走者の覚悟 松本常彦比較社会文化研究院教授 (読売 4/4)

三池港百年 街の再生歴史に活路 藤原恵洋芸術工学研究院教授 (読売 4/4)

JR福岡駅東の開発計画 九大院生の提言 街づくり反映へ (読売、朝日 4/5)

九大伊都の三施設 再入札へ (読売、朝日、日経、毎日、西日本 4/5)

女性医師 復職に壁 産婦人科は深刻 井手友美病院循環器内科助教 (読売 4/6)

九州学生アイスホッケー選手権 九州大に栄冠 MVPは有田達弘選手 (西日本 4/7)

福岡市立こども病院移転先 「九大病院横」市に提案 医師有志「機能補完で効果」 (西日本 4/7)

「食べることは生きること」作家高樹のぶ子(特任教授)の見た上海 (毎日 4/7)

ナノテク研究室を新設 九州システム情報技術研が名称替え 所長に新海・九大特任教授 (朝日 4/8)

研究室を歩く 大学ブランドの食品発売 九州大学農学部附属農場畜産研究室 (読売 4/8)

九大で入学式 (読売、西日本、毎日、朝日 4/8)

再生医療 九大、熊大研究も支援 (西日本、熊本日日、高崎日日 4/8)

九州大学創立九十七周年開学記念講演会 「花の色はうつりにけりな」絵画と文学の交響」 高階秀爾氏 (西日本、毎日、朝日 4/8、10、19)

二〇〇九年就職最前線 大学担当者に聞く 九州大 榎崎忠行氏 (日経産業 4/9)

広辞苑に架空の言葉? 「立ち枯らし」第六版削除 九大教授「契沖の解釈違いか」 (読売 4/9)

九州歴史資料館 西谷正・新館長に聞く 二〇一〇年秋、小郡市へ移転後の将来像 (西日本 4/11)

無線LANエリア 簡単拡大 小型中継・基地局を開発 機器同士がネット形成 九大研究チーム (西日本 4/11)

四国のツキノワグマ 独自進化、遺伝子に違い 九大教授分析 瀬戸内海誕生前から (毎日、朝日、産経、山口、熊本日日 4/11)

九大院に自動車専攻 来年四月の開講目指す (毎日 4/11)

連携強化へ協定 九大、福岡女子大、西南学院大 (読売、西日本、毎日、日刊工 4/11、12)

SIA 人物紀行 高樹のぶ子 上海編 (西日本 4/11、12、15)

ロボット百景 車いすロボット患者をエスコート 九州大学 (日刊工 4/12)

九州大学公開講座 「九州産地の森を知ろう」 (熊本日日 4/12)

農耕の歴史学が 九大宮本教授が講演 二十七日宮崎夕刊アサヒ 4/14

「米国大統領選挙」民主党VS共和党」公開討論 六本松キャンパス (日経、西日本 4/14、24)

九大と福大で本社提供講座 新聞の役割など話す (読売 4/15)

「分権型社会」を学ぶゼミ 本紙から客員教員、九大に開講 (西日本 4/15)

九大ソーセージ商品化 ブランド品四番目 地鶏が材料 (朝日 4/15)

税金の使途監視 二十日水巻で講演 齋藤・九大名誉教授 (西日本 4/16)

どっちも右脳のマウス 九大などのグループ発表 (毎日、読売、西日本、日経、日刊工、佐賀、高崎日日、熊本、南海日日、山口、熊本日日 4/16、17、23、28、5/5)

最先端・ナノテクの拠点に 九大など研究室 産学連携センター開所 福岡市 (毎日、西日本、日経 4/17、30)

「創造性養う訓練を」 九大梶山学長 母校・鞍手高で講演 (西日本 4/16)

月の裏の重力異常検出 宇宙航空研究開発機構 国立天文台 九州大 (朝日、日経、産経、熊本日日、長崎、大分合同、南日本、山口 4/17、25、28)

九大演習林で来月公開講座 椎葉 (高崎日日 4/17)

九州大学名誉教授 田村さんが特別講義 (朝日 4/17)

香川の青銅器 福岡で鋳造 九大調査で判明 (日経、読売、朝日、毎日、西日本、高崎日日、熊本日日 4/18、19、21)

即興癒しの音色」雑音、明るさから「作曲」新装導入 中村・九大院教授開講 「親しみある商店街に」 (西日本 4/18)

「食卓の向こう側」コミック編 糸島の全十二小学校に寄贈 佐藤剛史農学研究院助教 (西日本 4/18)

講演会のお知らせ 亀山銅像建立とその時代の九州大学 (西日本 4/18、19)

来月開所の九大診療センター 「カネミ患者に説明ない」 油症五島市の会 (長崎 4/19)

いまひとつふくおか 九州大知的財産本部准教授 前田真さん (朝日 4/20)

まちづくりで意見交換 福岡市西区 いとしま景観フォーラム (西日本 4/20)

伊都キャンパス 新型インフルエンザ 現実的な危機と考えて 「医療態勢の早期確立を」 九大大学院・林純教授に聞く (朝日 4/21)

学長力 九州大学 梶山千里総長 脱「横並び」へ 妙手次々 (朝日 4/21)

脱シルク殻を破る蚕 新築開発・たんばく質作りに活路 九州大・遺伝子資源開発研究センター (朝日 4/21)

文科省 再生医療実現プロ 九大など十一機関選定 (日刊工 4/21)

高樹のぶ子さんの文学交流「SIA」 5回目は中国作家、潘向黎さんと「柔らかなしなやかに」で意気投合 (毎日 4/22)

ボクシング 東洋選手権と大東亜の夢 乗松優 九大大学院比較社会文化学府博士課程在籍 (西日本 4/21、22、25、29)

九大、中国の環境に一役 砂漠緑化や排ガス浄化 (朝日 4/24)

光化学スモッグの原因 オゾン国内で増加へ 中国経済発展で「越境」九州大など予測 (熊本日日 4/25)

開発拠点設置を発表 ダイハツ九州 九大伊都キャンパス隣に (西日本、読売 4/25)

骨が語る古代の家族 田中良之「著」九州大学解剖学研究室 (朝日、西日本 4/27)

医療決断サポーター養成 七月から九州大、受講生募集 (西日本 4/28)

総合周産期医療センター 九州大病院 県が追加指定 (朝日 4/29)

FFG、大学と連携強化 九州大、長崎大、熊本大と協定 (西日本、日経、朝日、毎日、読売 4/29)

福岡市で「都心再生」ポジウム」 出口教人間環境学研究院教授 (西日本 4/30)

亀山上皇像建立と九大創設振り返る 福岡市 湯地文雄顕彰会 あす講演会 (西日本 4/30)

砂漠緑化風車 来月スタート 九大 中国内陸部で「将来は作物も」 (西日本 4/30)

「治の拠点形成へアクセル 九大 福岡・伊都新キャンパス
ダイヤハツが拠点設置
(日刊工 5/5)

くらし健康 病院の研究倫理審査委員会 笹栗俊之医学研究教授
(高崎日誌 5/2)

よみうり出前講座 認知症は生活環境改善を 太宰府地域団体ら七十五人参加 大八木保政医学研究教授
(読売 5/2)

九大で開発の特許権を供与 三菱UFJ信託
(山口 5/2)

渡来人と在来縄文人が共存 九大宮本教授「弥生時代の始まり」講演
(夕刊テレ 5/2)

時評 小説 復刊「九州文学」才能開花を 松本常彦比較社会文化研究教授
(読売 5/2)

中山森彦と仙厓展 博士が集めたコレクション 九州大学中央図書館
(読売 日経 朝日 佐賀 山口 高崎日誌 5/27, 9, 10)

やねだんの春を読んで 西日本フォーラム二十一地域再生小委員会に聞く 加留部貴行工学研究教授 特任准教授 篠崎彰彦経済学研究教授
(西日本 5/3)

九州いち押し 九州大学製法はかた地どりソーセージ
(日経 西日本 5/3, 24)

農場、演習林、実習船：現場で開く公開講座 十五日から計五回 九大が受講募集
(西日本 5/3)

対アジア 競合から協調へ 星野裕志経済学研究教授
(西日本 5/3)

慢性病の「神経因性疼痛」 抗うつ剤痛み緩和 九大と福大、効果を確認
(日経 5/5)

名護屋城 日韓友好の拠点 相互理解 博物館が促進 西谷正名誉教授
(読売 5/5)

延長戦制し九大初勝利 九州六犬野球
(西日本 5/6)

患者家族にもやさしく 九大病院、隣接地に宿泊施設
(日経 5/8)

日新火災 九大と数理モデル研究百周年事業 リスク管理高度化
(日刊工 5/8)

九大の学術標本二百三十点 常設展示室オープン 箱崎 希少土器、鉱石など多彩に
(毎日 日経 朝日 5/9, 24)

カネミ油症の治療・研究拠点 九大病院にセンター開設
(西日本 朝日 読売 毎日 長崎 南日本 高崎日誌 熊本日誌 公開 5/9, 10, 12)

歩き 遊び 優しいまち創造 道草・自由な誤読 五感触発 藤原恵洋芸術工学研究教授
(朝日 5/9)

脳卒中の治療後 追跡 九大、患者二千項目データベース化
(朝日 5/9)

最新のがん医療を考える講座 飯田三雄医学研究教授
(朝日 西日本 5/10, 12, 20, 27)

有明海再生へ活発議論 研究者ら連携強化確認 本城凡夫名誉教授
(読売 5/11)

九大退職の中島元教授講演 「美しい顔顔科の役割」
(読売 5/11)

科学 超大陸誕生の痕跡 五億年前の岩採取 南極観測隊 小山内康人比較社会文化研究教授
(朝日 5/12)

日本現代中国学会西日本本部会春季研究集会 六本松キャンパス
(西日本 5/13)

新型インフル・SARS治療 九大病院が施設検討
(朝日 5/13)

天神の未来図 街づくり 〆私の提案 全体を「祭り」の会場に 出口敦人間環境学研究教授
(西日本 5/13)

大学院で劇場支配人育成 芸術工学府
(読売 5/14)

九大病院で脳死 心臓移植始まる
(西日本 読売 佐賀 5/14)

新築開発促進へ 治験ネット設立 九大、福大など参加
(読売 朝日 西日本 日刊工 5/14, 16, 19, 29)

九大の心臓移植終わる
(読売 西日本 5/15)

入賞作四十五点展示 カメラの仲間 福岡YPC 九州大学病院「釜掛けの松」ギャラリー
(読売 5/15)

九大の次期教育学部長に八尾坂氏
(西日本 5/15)

中国人留学生 支援の輪 九州大・立命館アジア大：学内外で募金活動
(読売 5/15)

専門職大学院 十校、認証機関なし 九大医療経営など 評価受けられず
(西日本 熊本日誌 南日本 5/15)

若者交流し日韓協力を 九州大 韓国元統一相が講演
(西日本 5/15)

九大、産学連携を加速 窓口一本化 学外登用の人材活躍
(佐賀 5/16)

肝臓に優しい日本酒 産学官が連携し製品化 九州大大学院十長崎県工業技術センター十平戸の酒造会社
(西日本 5/16)

九州大マンドリンクラブ定期演奏会 あす、もちパレス
(読売 朝日 西日本 5/17, 22, 23)

九州大学筑紫地区 オープンキャンパス
(朝日 5/17)

増え続けるクロイン病 飯田三雄医学研究教授 松本主之病院消化管内科助教
(西日本 5/18)

九大 水素利用技術研究センター 水素社会へ安全性追求
(日経産業 5/19)

アルツハイマー関与の物質 佐賀女子短大と九州大の共同研究
(朝日 5/19)

「わたしを語る」に 菊池泰一名誉教授
(熊本日誌 5/20)

医薬の窓 九大病院が女性総合外来を開設
(熊本日誌 5/21)

平成新山 九州大など 火山ガス温度など調査
(長崎 5/21)

超短波 伊都キャンパス ハトよけの防護ネット設置
(西日本 5/21)

周産期母子医療センター 九大病院など二施設 県が追加指定・認定
(西日本 5/22)

脳に関するシンポ 二十四日に福岡で開催 九州大学病院
(朝日 5/21)

わたしを語る 海の生き物たちに魅せられて 菊池泰二名誉教授
(熊本日誌 5/21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31)

こども病院移転 「九大病院室は困難 大学側と福岡市 用地確保に懸念」
(西日本 5/23)

九州大学 二〇一一年に百周年を迎え「知の新世紀を拓く」 オープンキャンパス情報
(日経 5/23)

大学発VB育成 成果続々 九大と連携の支援組織「綾水会」
(日刊工 5/23)

九大落研「納涼寄席」 あすと二十五日
(西日本 5/23)

九大フアントム墜落四十年 基地考えるフォーラム
(読売 朝日 西日本 山口 5/24, 29)

「黄河流量は何故急激に減少したのか」その原因解明の試み 九州大応用力学研究所
(日経 5/26)

九大生が岩ガキ磨き 環境講座漁業体験 「頭と体で理解を」 福岡市西区
(長崎日誌 5/26)

ふくおか・マイルの旅 伊都キャンパス 進む「知の拠点」づくり。 人が大きく成長する環境の街。
(読売 5/27)

大学に過保護親増殖 九州大学の入学式
(朝日 5/27)

豊かな未来築く 方策を考えよう 30日、九大で講演会
(西日本 5/27)

留学生育成事業 九大の計画採択 経産省など
(西日本 5/27)

海洋大循環テーマに講義 九大退職の今働名誉教授 公開講義
(読売 5/28)

サンゴの増殖 与論島で実験 三井造船と九州大
(佐賀 南日本 5/28)

全面救済へ「第二幕」 C型肝炎訴訟 原告代表 山口さん九大で講義
(西日本 毎日 5/29)

激動のヤマ 語る紙面 旧三池労組 機関紙DB化し公開 九大研究班
(読売 5/29)

進化シリコンアイランド 企業拠点交流で付加価値 福田晃システム情報科学研究教授
(日経 5/29)

九州大学第六回アジア塾「どうなる日本」の食と農…世界の食糧と日本」
(読売 5/30)

「社会と結ぶ考古学」を 課題山積の学会 西谷正名誉教授
(朝日 5/30)

胎児もカネミ油症被害 九大院准教授 へその緒汚染確認
(朝日 西日本 毎日 5/30)

駐マレーシア特命全権大使

平成二十年五月十九日(月)、堀江正彦駐マレーシア特命全権大使が、梶山総長を表敬訪問しました。

堀江大使は、帰国に際し本学を訪れたもので、日本とマレーシアの間で進められているマレーシア日本国際工科大学(MJ IUT)設立構想の今後の動向等について、意見交換が行われました。

また、表敬訪問終了後は、国際ホールにおいて「マレーシアと日本―東方政策」と題して、マレーシアの経済・政治・社会情勢などについてわかりやすく講演していただきました。



中国人権研究会会長

平成二十年五月二十日(火)、羅豪才中国人権研究会会長(元北京大学副校長、前全国政治協商

会議副主席)が、来日の折本学を訪れ、法学研究院の直江研究院長らと民主・公共管理、軟法、人権理論等に関する活発な懇談を行いました。

その後、梶山総長を表敬訪問し、総長室に掲げられている孫文氏及び郭沫若氏の書を見学しました。



welcome to Kyushu University

ようこそ九州大学へ

南アフリカ訪問団

平成二十年六月九日(月)、フランシス・ピーターセン ケープタウン大学都市環境工学部長以下六名が、柳原理事(国際交流・留学生担当)及び村上理事(研究・企画担当)を表敬訪問し、研究者交流等について意見交換を行いました。

今回の訪問は、南アフリカ大使館から科学技術開発分野において交流を図ることを目的として本学に依頼があったもので、伊都キャンパスにおいて工学研究院の先生方と討議を行い、併せて水素利用技術センター、理系図書館等を視察されました。

中国人民大学学長補佐

平成二十年六月十三日(金)、吴晓求中国人民大学学長補佐が、柳原理事(国際交流・留学生担当)を表敬訪問しました。

本学と中国人民大学は、二〇〇四年六月に大学間交流協定を締結していますが、経済学研究院、農学研究院等においては長年にわたり活発な共同研究が行われています。今後の更なる共同研究の推進と学生交流について、意見交換が行われました。

また、表敬訪問終了後は、ダブルデイグリー制度に関する協議を行うため、経済学研究院を訪問されました。

米国フルブライト国際教育交流プログラム訪問団

平成二十年六月十九日(木)、ジョー・アレクサンダー ベルモント大学経営大学院副学部長以下七名が、柳原理事(国際交流・留学生担当)を表敬訪問し、海外からの学生の受け入れ体制等について意見交換を行いました。

今回の訪問は、米国の高等教育機関において国際化に関連した業務に携わっている方が参加する米国フルブライト国際教育交流プログラムの一環として、日米教育委員会から本学に依頼があったものです。また、表敬訪問後は、JTWプログラム及び海外大学との交流の企画・運営を担当している留学生センターのポラック・ジョーダン教授及びJTWプログラムの学生と懇談しました。



ビッグプロジェクト

その成功と失敗の研究

編者：飯吉厚夫（中部大学総長、京都大学名誉教授）
村岡克紀（中部大学教授、九州大学名誉教授）
発行：新潮新書（2008年5月刊、720円）

こんな本
出しました

著者から一言

「とにかく興味深く、その日のうちに読み上げてしまいました」（作家・日本芸術院長・三浦朱門氏の九ページに及ぶ読後感の結び文）、「読み物風に書かれているので、中学生でも読みこなせるだろう」（西日本新聞書評）、「若い人たちに大いに読まれて科学技術の将来に思いを馳せ、日本人の誇りを取り戻してほしい」（株）西部技研前会長・隈智恵子氏からのメール）、「ビッグプロジェクトへの熱い思いと敬意が深く感じられ、感銘を受けた」「各々章末に筆者が結ぶ警鐘とも受け取れる短い言葉を心に留め、考えて行かねば」（読者の感想文）。本書は、共著者二人にとって初の一般向け書籍の出版です。発行後二週間に寄せられたこれらの反響に、九大時代に研究に向けていたのと同じほどのエネルギーと情熱を本書執筆にかけてきたのが報われる思いがしています。

村岡 克紀



編集後記

工学部が伊都キャンパスに移転して早三年になろうとしている。新しいキャンパスでの生活にも慣れてきたが、想定外のトラブルもいくつか経験した。その一例は悪天候時の風の強さである。建物の出入り口の多くは開き戸式で、強風時には戸の開閉に苦勞するだけでなく危険も伴う。近々、風の影響を受けやすいスライド式のドアに付け替えられるらしいが、伊都地区の風の強さが最初からわかっていたら、出入り口には設計当初からスライド式のドアが採用されていたであろう。最近、大学での教育についても、社会での経験を重視した実践教育の必要性が指摘されているが、新キャンパスでの多くの経験を通して、現場を知ることの重要性を再認識した。

編集委員主幹 教授 高木 節雄

猛暑に高校野球への熱情を注いできた世代にとって、年中行事となったオーブンキャンパスは、心地よい涼風となってきました。受験時や入学時のはりつめた緊張感とは異なって、高校生の翳りのない真つ白な期待感であれ、未完であるが故のおおらかさであれ、その全てが、とても清々しく魅力的に感じられるからです。九州大学では、いよいよ来年から、新入生を伊都地区の新キャンパスで迎えることとなります。大学も、新キャンパスも、ある意味では完成への途上であり、またそうあるべきでしょう。しかし、大学が清々しく魅力的であるための条件は何処にあるのでしょうか。答えは簡単にみつかりませんが、叡智を集めてそのことを問い続けていく場でありたいと考えています。今年はずいぶん夏になりそうです。

編集委員 教授 井手 誠之輔

今回、表紙を飾った樽神輿の取材を担当しました。寮生・OB・沿道から応援してくれる方々の間には、それぞれ最後の樽神輿を成功させるのだという信念の元に、素晴らしい一体感が生まれているなど取材を通して感じました。そんな中でも一番目を引いたのが、樽神輿を担ぐ一年生はもちらんですが、一年生を激励しながらも一般車を誘導し、ゴミ袋を片手に樽神輿で出たゴミだけではなく、沿道の空き缶やたばこの吸い殻を拾っている二年生の姿でした。そんな彼らの姿が眩しく映りました。後輩に引き継いでほしい九大の伝統がそこにはたくさんありました。

広報室 城戸 陽一

九大の最新情報は「九大広報」の定期購読で。

九州大学同窓会連合会では、九州大学の姿をご理解いただくため、同窓生や在学生のご家族の皆様をはじめ、広く一般の方々にも「九大広報」の定期購読をお願いしています。定期購読は一年間六巻分（隔月発行）三千円でお受けいただけますので、ご希望の方は、同窓会連合会事務局までご連絡をお願いします。

九州大学同窓会連合会事務局
TEL.092-642-4328 FAX.092-642-2113
E-Mail sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

